

大阪府 茨木市

# 平成24年度発掘調査概報

－個人住宅建築に伴う発掘調査報告－

平成25年3月



茨木市教育委員会

## はじめに

私たちが暮らしているこの茨木は、北半分は丹波高原の老の坂山地の麓で、南半分には大阪平野の一部をなす三島平野が広がり、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた過ごしやすい環境の土地として、はるか昔から多くの人たちが生活してきました。そうした人びとの生活は風習として現在に伝えられ、また人びとの生活した足跡は、土に埋もれた文化財として今に残されてきました。

このような先人たちの生活や文化は、現代の私たちの生活の基となるものであり、また、土の中に残された遺構や遺物は、過去の人びとの生活を知る手がかりとなる貴重な文化遺産として、次代に残し伝えていくべきものであります。

しかし、昨今市内においても様々な開発が計画されており、人びとの貴重な文化財を現状のまま残すことが困難になっています。そのため、文化財を記録して保存し、また出土した遺物や遺構などの資料から古代の人びとの生活像を捉えるために、各種開発等事業を実施される事業者の方々にご協力いただき、開発等に先立ち発掘調査を実施し、文化財の記録保存に努めております。

平成24年度は、茨木遺跡・郡遺跡等の調査を実施しました。本冊子はそれらの発掘調査について概略を述べたものです。いずれの調査地からも先人達の生活を知るうえで貴重な遺物、遺構が出土しており今後の研究が期待されます。

終わりにになりましたが、調査にあたって惜しみないご協力をいただきました関係の皆様へ深く感謝するとともに、今後とも本市の埋蔵文化財の保存・保護に一層の温かいご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

平成25年3月31日

茨木市教育委員会

教育長 八木 章 治

# 目 次

はじめに

例 言

図版目次

平成24年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

## 第一章 位置と環境

茨木遺跡 .....	5
太田茶臼山古墳 .....	16
郡遺跡 .....	20
太田廃寺跡 .....	26
総持寺遺跡 .....	29
中条小学校遺跡 .....	32
東奈良遺跡 .....	35
溝咋遺跡 .....	40
耳原遺跡 .....	42
牟礼遺跡 .....	44

## 例 言

- 1 本書は、平成24年度国庫補助事業（総額2,828,824円、国庫50%、市費50%）として計画、実施した埋蔵文化財の緊急発掘調査の概要報告書である。
- 2 平成24年度事業として、平成24年4月1日から平成25年3月31日までのあいだ、発掘調査ならびに整理作業を実施した。
- 3 調査は、調査員 中東 正之、宮本 賢治、関 梓、富田 卓見、木村 健明、須田 佑子が担当し、執筆は中東 正之、関 梓、富田 卓見、藤田 徹也、木村 健明、須田 佑子が行ない、編集は上田哲平、藤田徹也が行なった。また国庫補助にかかわる事務は、茨木市教育委員会地域教育振興課が担当した。
- 4 本書で使用する標高は、すべてT.P.（東京湾標準海水面）で表し、各挿図に掲載した方位表記のうち、M.N.は磁北、Nは真北を示す。また、平面直角座標第IV系に準じる。座標は、世界測地系に基づく。
- 5 出土遺物及び関係書類・図面・写真等は、茨木市教育委員会・茨木市立文化財資料館 〒567-0861大阪府茨木市東奈良三丁目12番18号 TEL072-634-3433 で保管している。
- 6 遺構・遺物等の記載は、土層及び遺物の色調については『新版標準土色帖』（小山・竹原 編）を使用した。
- 7 本事業に携わった補助員は以下のとおりである。  
石井恵子、上山篤志、大出暁雄、大田年男、大坪啓子、岡部裕樹、門井久登、神谷裕子、川畑康雄、地代広信、清水良真、下口法子、初代絵理、高瀬隆治、高橋公子、滝口香奈子、辻本祐布子、中川夕香、西坂泰子、野坂勇次郎、林和子、藤井脩、堀澤照美、松澤健、松政郁子、宮西貴史、山下哲也、吉田 与喜一、和田恵津子

## 図版目次

第1図	茨木遺跡	調査地位置図	P. 5	第38図	太田廃寺跡	調査区位置図	P. 26
第2図	茨木遺跡	調査位置図	P. 6	第39図	太田廃寺跡	調査地位置図	P. 26
第3図	茨木遺跡	発掘調査風景	P. 6	第40図	太田廃寺跡	調査区平面図・断面図	P. 27
第4図	茨木遺跡	調査区配置図	P. 7	第41図	太田廃寺跡	発掘調査風景	P. 28
第5図	茨木遺跡	調査位置図	P. 7	第42図	総持寺遺跡	調査区位置図	P. 29
第6図	茨木遺跡	調査区平面・断面図	P. 8	第43図	総持寺遺跡	調査地位置図	P. 29
第7図	茨木遺跡	西半部遺構面および北壁断面	P. 8	第44図	総持寺遺跡	調査区平面図・断面図	P. 30
第8図	茨木遺跡	東半部遺構面および北壁断面	P. 8	第45図	総持寺遺跡	発掘調査風景	P. 31
第9図	茨木遺跡	出土土器実測図	P. 9	第46図	中条小学校遺跡	調査区配置図	P. 32
第10図	茨木遺跡	発掘調査風景	P. 9	第47図	中条小学校遺跡	調査地位置図	P. 32
第11図	茨木遺跡	調査区配置図	P. 10	第48図	中条小学校遺跡	発掘調査風景	P. 33
第12図	茨木遺跡	発掘調査風景	P. 11	第49図	中条小学校遺跡	平断面図	P. 34
第13図	茨木遺跡	調査区平断面図	P. 11	第50図	東奈良遺跡	調査区位置図	P. 35
第14図	茨木遺跡	調査区位置図	P. 12	第51図	東奈良遺跡	調査地位置図	P. 35
第15図	茨木遺跡	平面・断面図	P. 13	第52図	東奈良遺跡	遺構平面・南壁土層断面図	P. 36
第16図	茨木遺跡	発掘調査風景	P. 13	第53図	東奈良遺跡	発掘調査風景	P. 37
第17図	茨木遺跡	調査区配置図	P. 14	第54図	東奈良遺跡	出土遺物実測図(1)	P. 38
第18図	茨木遺跡	調査区平面断面図	P. 15	第55図	東奈良遺跡	出土遺物実測図(2)	P. 39
第19図	茨木遺跡	発掘調査風景	P. 15	第56図	溝咋遺跡	調査区配置図	P. 40
第20図	太田茶臼山古墳陪塚	調査地位置図	P. 16	第57図	溝咋遺跡	調査地位置図	P. 40
第21図	太田茶臼山古墳陪塚	調査区配置図	P. 17	第58図	溝咋遺跡	断面柱状図	P. 41
第22図	太田茶臼山古墳陪塚	発掘調査風景	P. 17	第59図	溝咋遺跡	発掘調査風景	P. 41
第23図	太田茶臼山古墳陪塚	調査区平面断面図	P. 18	第60図	耳原遺跡	調査区配置図	P. 42
第24図	太田茶臼山古墳陪塚	調査区配置図	P. 19	第61図	耳原遺跡	調査地位置図	P. 42
第25図	太田茶臼山古墳陪塚	発掘調査風景	P. 19	第62図	耳原遺跡	遺構平面・断面図	P. 43
第26図	太田茶臼山古墳陪塚	調査区平面断面図	P. 19	第63図	耳原遺跡	出土遺物	P. 43
第27図	郡遺跡	調査地位置図	P. 20	第64図	耳原遺跡	南側調査区全景	P. 43
第28図	郡遺跡	調査区配置図	P. 21	第65図	牟礼遺跡	調査区配置図	P. 44
第29図	郡遺跡	調査区平面図	P. 22	第66図	牟礼遺跡	調査地位置図	P. 44
第30図	郡遺跡	東壁断面図	P. 22	第67図	牟礼遺跡	断面柱状図	P. 45
第31図	郡遺跡	発掘調査風景	P. 22	第68図	牟礼遺跡	発掘調査風景	P. 45
第32図	郡遺跡	調査区位置図	P. 23	第69図	牟礼遺跡	調査区位置図	P. 46
第33図	郡遺跡	2区北壁断面図	P. 24	第70図	牟礼遺跡	調査地位置図	P. 46
第34図	郡遺跡	発掘調査風景	P. 24	第71図	牟礼遺跡	調査区平面・土層断面図	P. 47
第35図	郡遺跡	調査区位置図	P. 25	第72図	牟礼遺跡	南壁土層断面状況	P. 47
第36図	郡遺跡	土層断面柱状図	P. 25	第73図	牟礼遺跡	出土遺物	P. 47
第37図	郡遺跡	発掘調査風景	P. 25				

## 平成24年度 埋蔵文化財発掘調査 一覧表

No	遺跡名	調査担当	調査位置	調査期間	調査面積	調査内容
1	溝咋遺跡	中東	五十鈴町223-1	H24.1.5～ H24.1.6	23㎡	詳細は本誌に記載
2	茨木遺跡	宮本	片桐町1496	H24.2.7～ H24.2.8	22㎡	詳細は本誌に記載
3	東奈良遺跡	宮本	東奈良二丁目764-13	H24.3.12～ H24.3.14	22㎡	詳細は本誌に記載
4	耳原遺跡	宮本	耳原一丁目237-5	H24.4.12～ H24.4.13	21㎡	詳細は本誌に記載
5	茨木遺跡	中東	大手町1593	H24.4.18～ H24.4.19	24㎡	詳細は本誌に記載
6	太田茶臼山古墳陪塚	関・木村	高田町1-47	H24.5.22～ H24.5.23	30㎡	詳細は本誌に記載
7	太田廃寺跡遺跡	木村	太田二丁目248-6	H24.5.23～ H24.5.24	9㎡	詳細は本誌に記載
8	牟礼遺跡	中東	中津町858-12	H24.6.13～ H24.6.14	33㎡	詳細は本誌に記載
9	郡遺跡	須田	上穂積四丁目758-4, 757-14	H24.7.19～ H24.7.20	14㎡	詳細は本誌に記載
10	郡遺跡	須田	上穂積四丁目750-17	H24.8.16	11.5㎡	詳細は本誌に記載
11	総持寺遺跡	木村	西河原二丁目48-1, 48-3-2	H24.8.23～ H24.8.24	22.5㎡	詳細は本誌に記載
12	茨木遺跡	須田	元町1524-2, 1524-4	H24.8.29～ H24.8.30	12㎡	詳細は本誌に記載
13	牟礼遺跡	富田	園田町736-4	H24.8.30	8㎡	詳細は本誌に記載
14	中条小学校遺跡	須田	下中条町45-2	H24.9.10～ H24.9.11	10.4㎡	詳細は本誌に記載
15	茨木遺跡	須田	元町1524-1	H24.9.25	3.75㎡	詳細は本誌に記載
16	郡遺跡	木村	上穂積四丁目2-15	H24.11.5	2.25㎡	詳細は本誌に記載
17	宿久庄遺跡	関	宿久庄二丁目380-1	H24.11.30	2㎡	土層確認のみ、遺構・遺物等は確認できなかった。
18	茨木遺跡	関	元町1524-3, 1524-5	H24.12.5	6㎡	詳細は本誌に記載
19	太田茶臼山古墳陪塚	関	高田町1-101	H24.12.21	20㎡	詳細は本誌に記載

平成24年度の発掘調査報告のうち、平成25年1月以降の調査については「平成25年度発掘調査概報-個人住宅建築に伴う発掘調査報告書-」にて掲載します。

# 位置と環境

## 1. 地理的環境

茨木市は、淀川の北、大阪府北部に位置し、大阪府高槻市、摂津市、吹田市、箕面市、豊能町、京都府亀岡市と接している。市域は、南北に17.05km、東西に10.07kmと南北に長く、面積は76.52km<sup>2</sup>をはかる。

市域の地勢を概観すると、その北半はポンポン山（679m）を最高峰とする古生層の山地である北摂山地（老ノ坂山地）が、南半は大阪平野の一部をなす三島平野が広がっており、大きく区別することができる。なお、市域の西端には千里山累層と呼ばれる洪積層からなる千里丘陵がある。

市域内には、北摂山地に水源をもつ佐保川（元茨木川の上流）、勝尾寺川、安威川、元茨木川が流れ、佐保川や勝尾寺川、安威川の上流部では河岸段丘や扇状地が発達し、元茨木川や安威川の中流域より下流では三島平野が形成されている。

## 2. 歴史的環境

茨木市内では旧石器時代の明確な遺構は確認されていないが、山麓部の初田遺跡、丘陵裾部の太田遺跡、安威遺跡、耳原遺跡、郡遺跡などではナイフ形石器や有舌尖頭器が出土している。また、平野部の東奈良遺跡や新庄遺跡からナイフ形石器が出土している。

縄文時代の遺跡は、草創期から中期にかけては希薄で大半が山間部での表採資料である。平野部の東奈良遺跡では、前期末のC字の爪型土器、西福井遺跡や初田遺跡・太田遺跡では中期から後期の縄文土器が出土している。縄文遺跡の多くは縄文時代晩期が中心であり、耳原遺跡において深鉢棺墓16基が発見され、総持寺遺跡においても甕棺墓と考えられる土器群が出土している。また、東奈良遺跡・牟礼遺跡・五日市東遺跡などでも晩期の縄文土器が出土している。

弥生時代になると、前期に東奈良遺跡、目垣遺跡、総持寺遺跡、溝咋遺跡、新庄遺跡などの集落遺跡が形成される。総持寺遺跡では、前期前半の大型の壺を利用した土器棺が出土している。前期末になると、耳原遺跡や郡遺跡でも集落が形成される。

市域の特徴として、弥生時代中期から後期にかけて遺跡数が急増することが挙げられる。中期には、東奈良遺跡や目垣遺跡、郡遺跡などの集落規模が拡大していく中で、新たに中条小学校遺跡や見付山遺跡、倍賀遺跡、中河原遺跡、春日遺跡、太田遺跡、玉櫛遺跡などで集落が形成されていく。これら遺跡の中で、前期から集落活動が継続している東奈良遺跡は、重要文化財に指定されている石製銅鐸鑄型や土製銅戈鑄型、ガラス製勾玉の土製鑄型などが出土し、青銅器及びガラスの鑄造生産が行われていたことで知られている。また、目垣遺跡では石包丁や多くの粘板岩の原材料や未製品が出土し、石器生産及び流通の拠点である可能性が指摘されるほか、類例の少ない人面付土器も出土している。

弥生時代後期になると、宿久庄遺跡や安威遺跡、上穂積遺跡、高地性集落として石堂ヶ丘遺跡などの集落が形成されるが、小規模なものが多い。

古墳時代の集落についてのべると、まず前期初頭に東奈良遺跡が規模を拡大させる。また、

郡遺跡、倍賀遺跡、宿久庄遺跡、太田遺跡、溝咋遺跡、中条小学校遺跡、玉櫛遺跡においては弥生時代以降引き続き集落が形成され、新たに上中条遺跡でも集落が形成される。溝咋遺跡では、古墳時代前期に関東、東海、山陰、瀬戸内地方の土器が出土しており、他地域との交流が盛んであったことがうかがえる。

古墳は市域北部の山麓部や千里丘陵裾部に多く築造される。前期では、仿製三角縁神獸鏡9面を含む12面の鏡や貝製の鍬形石、車輪石、武具、筒型銅器などの副葬品が出土した紫金山古墳や將軍山古墳など竪穴式石槨を有する全長約100mの前方後円墳が安威川の西側に築造される。いずれも他地域から運び込まれたと考えられる結晶片岩を石槨に用いているのが特徴である。前期末には、径10mの安威0号墳や全長45mの前方後円墳である安威1号墳が築造される。

中期になると、全長226mの前方後円墳で、宮内庁により継体天皇陵に治定されている太田茶臼山古墳や、消滅したものの前方後円墳の可能性が指摘されている石山古墳が築造される。

後期になると、耳原古墳、南塚古墳、海北塚古墳、青松塚古墳が築造される。また、山麓部を中心に横穴式石室を主体とする群集墳である新屋古墳群、安威古墳群、將軍山古墳群、長ヶ淵古墳群、桑原古墳群などが多く認められるようになる。このような中、上寺山古墳は府下では数少ない木芯粘土室を有しており、その存在が注目される。

後期末～終末期古墳としては、鼻摺古墳、主体部に埴を敷いた初田1・2号墳、豪華な副葬品で知られる阿武山古墳などがある。また、平野部の駅前遺跡や郡遺跡、春日遺跡、中条小学校遺跡や台地上の総持寺遺跡や太田遺跡などから後世に墳丘を削平された埋没古墳が多く検出されている。

古代になると、京都から九州大宰府を結ぶ古代の山陽道が、現在の市域中央部を東西にはしるように設けられた。また、郡遺跡において複数の掘立柱建物などが検出され、郡遺跡周辺の見付山遺跡や中穂積遺跡においても奈良時代から平安時代前半の掘立柱建物などが認められることや、井戸から土師器杯や須恵器の横瓶や甕とともに製塩土器や墨書土器が出土していることから郡遺跡周辺が「嶋下郡衙」の推定地とされている。

このほか、当該期の集落として、東奈良遺跡、宿久庄遺跡、宿久庄西遺跡、総持寺遺跡、総持寺北遺跡、新庄遺跡、西福井遺跡などがある。新庄遺跡では、平安時代前期から中期の遺構とともに多くの緑釉陶器や越州窯青磁が出土している。

また古代寺院は、飛鳥時代から奈良時代創建の穂積廃寺跡、太田廃寺跡、三宅廃寺跡などがある。特に、太田廃寺跡では明治時代の開墾中に塔心礎、仏舎利用具一式、複弁蓮華文軒丸瓦、忍冬唐草文軒平瓦などが発見された。残念ながら塔心礎は失われ確認することはできない。

平安時代前期になると、三宅廃寺跡以外の寺院は衰退し、総持寺や忍頂寺が建立される。その他、安威の大職冠山では凝灰岩製の石櫃から三彩釉有蓋壺の蔵骨器が発見されている。

平安時代後期から中世になると、平野部を中心に集落が発展し、元茨木川周辺では、右岸域に東奈良遺跡や中条小学校遺跡が、左岸域に舟木遺跡、新庄遺跡、玉櫛遺跡、葦分神社東方遺跡、真砂遺跡などがある。特に、玉櫛遺跡では近年の調査で屋敷地と考えられる遺構とともに、東海、瀬戸内地方の土器や貿易陶磁器が出土しており、淀川を利用した水運の交易拠点であった可能性がある。

また、安威川流域の鮎川遺跡、溝咋遺跡、溝咋南遺跡、目垣遺跡、平田遺跡、勝尾寺川流域



の郡遺跡、見付山東遺跡、中河原遺跡、西福井遺跡、宿久庄遺跡、宿久庄北遺跡、富田台地上の総持寺遺跡、総持寺北遺跡、太田遺跡など当該期の集落遺跡が市内各地で確認されている。

山間部においては、栗栖山砦跡・クルス山中世墓地や伏原中世墓地などが点在し、忍頂寺元享元年（1321）銘五輪塔、大岩八幡神社文安三年（1446）銘五輪塔や佐保八坂神社の石槽など、鎌倉時代前半の石造物が多く残っている。

中世末から近世初頭の遺跡としては、茨木城、水尾城、三宅城、福井城、泉原城、佐保城などの城郭がある。特に、茨木城は有岡城、池田城、芥川城、高槻城とならび北摂地域の主要な総構えの城郭の一つである。戦国時代には中川清秀、片桐且元の居城として茨木地域の中核的存在であったが、元和元年（1616）の一国一城令に伴い廃城となった。茨木城を含む茨木遺跡は、平成18年度の発掘調査で茨木城の堀と想定される溝から大量の建具が出土している。また、近年の個人住宅建築に伴う発掘調査などにより徐々にその様相が明らかになってきている。

## 参考文献

茨木市役所1968『茨木市史』

茨木市教育委員会1999『平成9・10年度 発掘調査事業報告』

茨木市教育委員会2003『東奈良遺跡 東奈良地区整理事業に伴う発掘調査報告』

茨木市教育委員会2007『平成18年度 発掘調査概報』

茨木市2012『新修 茨木市史 第一巻 通史I』



# 茨木遺跡

**位置と環境** 茨木遺跡は市内中心部の阪急京都線茨木市駅の北西に近接しており、北から上泉町・東宮町・片桐町・本町・元町・大手町にかけて広がる中世～近世の集落跡を主体にした遺跡である。茨木川沿いの左岸に南北に展開し、北側では安威川と茨木川が合流するため閉鎖的な地形を呈している。遺跡範囲は南北約1 km、東西約450mを測る。遺跡内の大半は現在でも古い町並みが広がっているが、南側は駅から近いこともあり商業的役割を担う地域となっている。

当遺跡内の中央西側に位置する茨木小学校は「茨木城跡」と推定されており、周辺の既往の調査によって、城の周囲に堀が存在していたことが確認されている。平成18年度の調査では、堀内から織豊期の箆(おさ)欄間や戸板などの建具が出土した。また、江戸期の瓦や陶磁器も出土しており、一国一城令によって廃城になった際に打ち捨てられたものと考えられている。他にも遺跡内にて調査が行われているが、堀の正確な配置は不明である。

**参考文献** 茨木市教育委員会 2007『平成18年度発掘調査概報』



第1図 調査地位置図(S=1/5000)

## 茨木遺跡 (IK11-5)

所在地 茨木市片桐町1496  
 開発事業 個人住宅新築工事  
 調査期間 平成24年2月7日～平成24年2月8日  
 調査面積 約22㎡  
 調査担当 宮本 賢治  
 調査結果

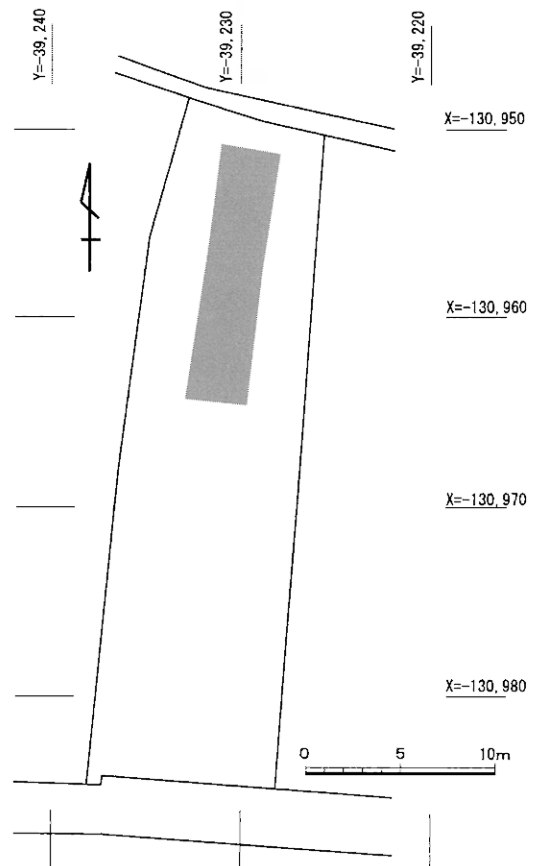
調査地は、茨木城推定地である茨木小学校の南に位置し、現地表面は標高約11mをはかる。

今回の発掘調査においては、南北14m、東西3mの調査区を設定し、現地表面 (GL) から-1.6mまで調査を行った。

調査地北側で、ピットや土坑などの遺構を確認することができた。

出土遺物は、コンテナにして約半分の量が出土している。そのほとんどは平瓦であり、この他に播鉢などの陶磁器類が出土している。

また、第4層からは土師器片や瓦器片が出土した。



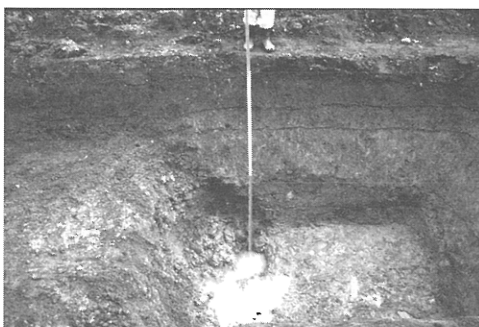
第2図 調査位置図 (S=1/400)



遺構検出状況 (南から)



遺構検出状況 (北から)



東壁土層断面



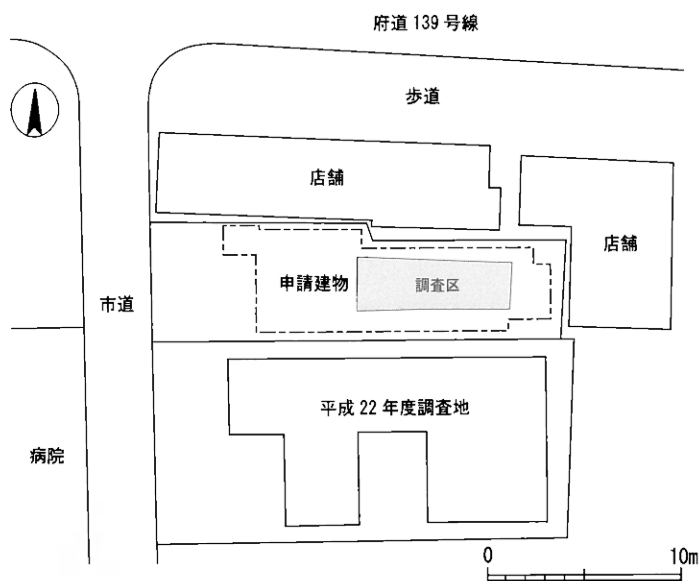
東壁土層断面

第3図 発掘調査風景

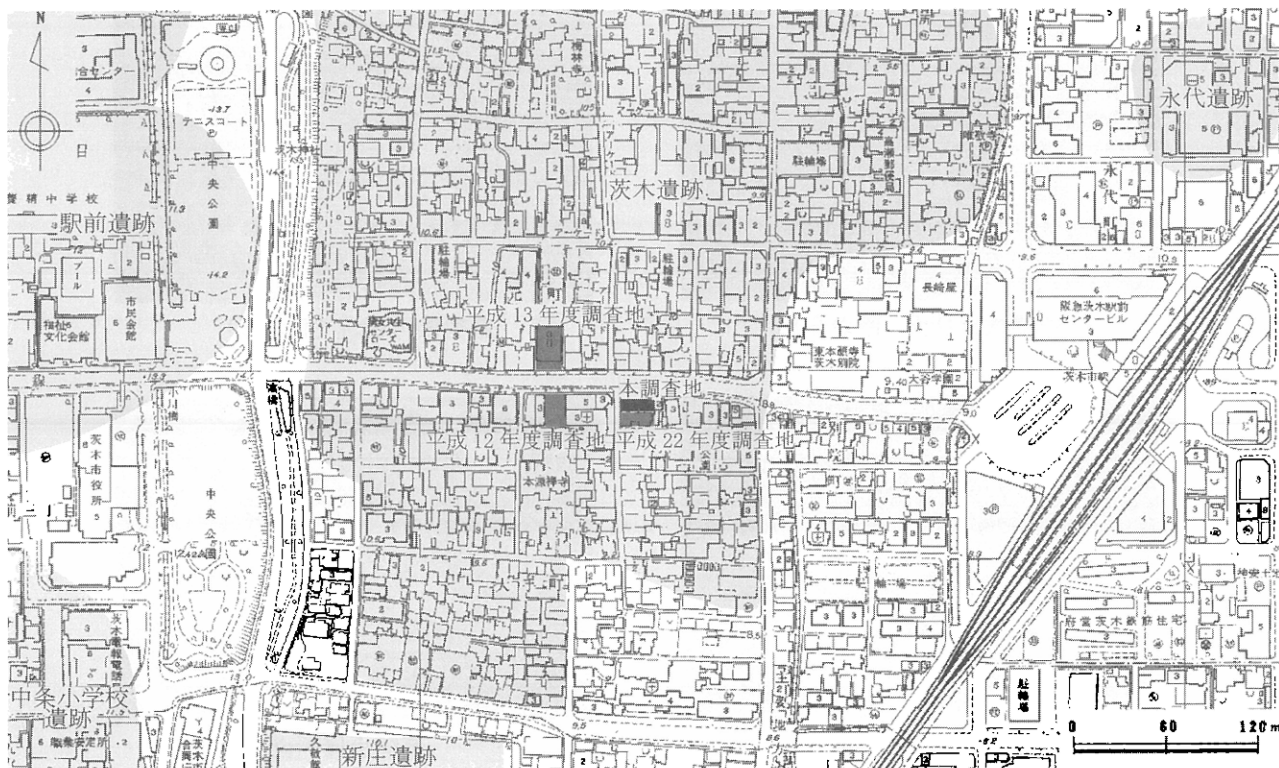
# 茨木遺跡

所在地 茨木市大手町1593  
 開発事業 個人住宅新築工事  
 調査期間 平成24年4月18日～19日  
 調査面積 約24㎡  
 調査担当 中東 正之  
 調査結果

経過 茨木遺跡は、茨木川左岸の沖積低地に位置する、弥生時代から中・近世の複合遺跡である。その中心となるのは茨木城とその城下町である。廃城後は、地域の商業の中心地として発達し、現在も近世在郷町的景観の残る地域である。本調査地は、享保18年(1733年)の地図によると、東本願寺茨木別院参道沿いの鍛屋町に該当する。付近の既往の調査では、当地の西方に位置する平成12年度調査地で、中世の包含層(整地層)や遺構面、平成13年度調査地では、近世の複数の包含層(整地層)や二時期の遺構面を確認している。とくに標高8.0m付近の下層面は、竹管水道(上水道)、瓦製土管列(下水道)、落ち込みなどが検出されており、その一部は茨木城存続期の遺構である可能性が指摘されている。また、当地南隣の平成22年度調査地では標高8.9mで近世と思われる遺構面を検出している。本調査地では、平成22年度調査地と同一の遺構面を確認し遺構検出を実施した。

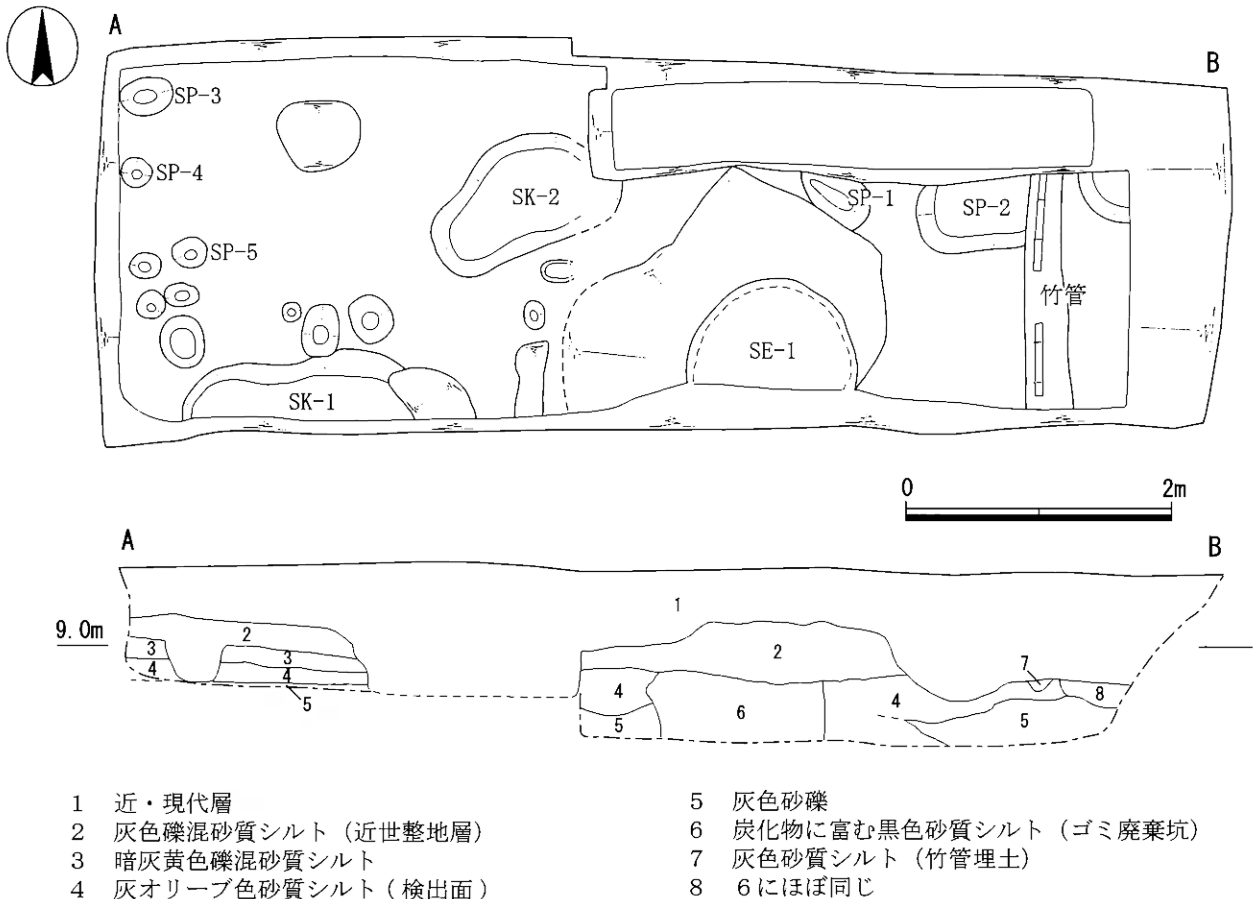


第4図 調査区配置図

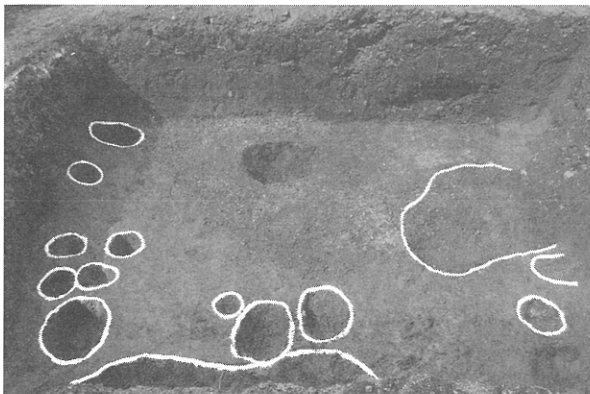


第5図 調査位置図

**遺構と遺物** 現地表面は標高約9.6mを測る。層序は、上層より第1層 近・現代層、第2層 灰色礫混砂質シルト（近世整地層）、第3層 暗灰黄色礫混砂質シルト（中・近世包含層）、第4層 灰オリーブ色砂質シルト、第5層 灰色砂礫となる。遺構検出は、長らく次表層であったとみられる第4層上面（標高約8.9m）で実施した。検出面直上は、中世包含層と考えられる第3層が部分的に被覆するが、概ね近世整地層もしくは近・現代層の直下となり削平されている。検出遺構は、近世の竹樋、井戸、土坑、ピット、中世のピットなどである。竹樋は、幅0.25～0.35m、深さ約0.1mを測る溝に布設された上水道で、検出面の高さでは竹管が露出するほど削平されている状況である。SE-1は、上面形は判然としないが、深さ0.4m以深は径1.3mの円形を呈する井戸である。SK-1は長軸1.8m、深さ0.15m、SK-2は長軸1.5m、深さ0.15mを測る土坑である。ピットは、柱穴と思われる径0.15～0.5m、深さ0.1～0.2mを測るものと、長軸0.9m以上、深さ



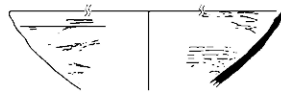
第6図 調査区平面・断面図



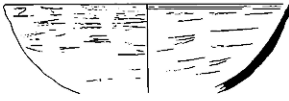
第7図 西半部遺構面および北壁断面



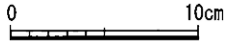
第8図 東半部遺構面および北壁断面



1



2



0.07mを測る大きく浅い形状のSP-2がある。SP-1～5については、瓦器や土師器の破片が出土するところから、中世段階と考えられる。遺物は、おもに整地層や井戸上層から出土した近世国産陶磁器類や棧瓦、箸などの木製品である。中世遺物は、土師器については遺存状態が悪く詳細は不明であるが、瓦器については、SP-2から12世紀末から13世紀始頃の和泉型瓦器椀（第9図1）が出土したほか、排土内からほぼ同時期と思われる樟葉型瓦器椀（第9図2）も回収されている。

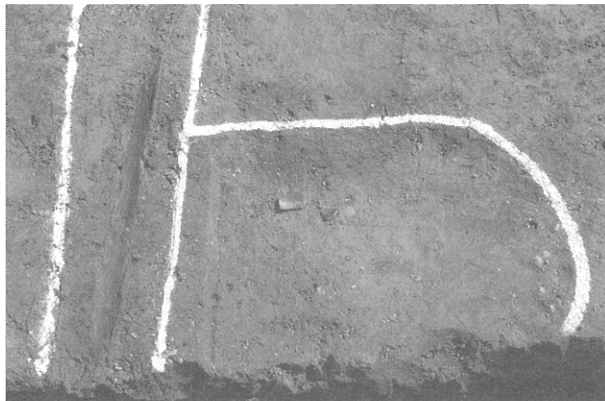
第9図 出土土器実測図（1：4）  
（1：SP-2 2：廃土内）

**小結** 平成12年度調査地の遺構面と同標高（8.9m）で遺構検出を実施した。その結果、茨木城築城以前の中世遺構と、竹樋などの近世遺構が重複する遺構面を確認した。調査面積が狭小な

ため、その土地利用状況は不明であるが、宅の存在も想定され、当時の微地形を探るうえでも有用な知見を得た。

### 参考文献

茨木市教育委員会 2002『平成13年度 発掘調査概報』



竹管およびSP-2土器出土状況（北から）



調査地近景（西から）

第10図 発掘調査風景

## 茨木遺跡 (IK12-3)

所在地 茨木市元町1524番2、4

開発事業 個人住宅新築工事

調査期間 平成24年8月29・30日

調査面積 12.0㎡

調査担当 須田 佑子

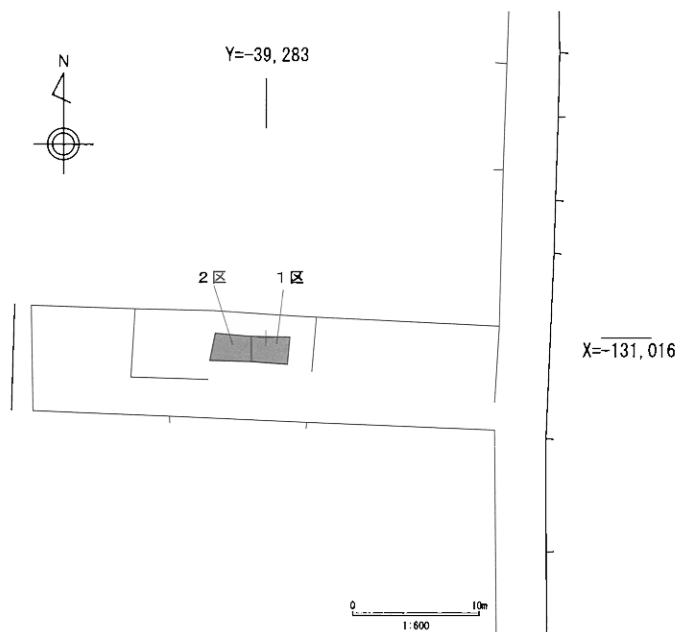
### 調査結果

**経過** 大阪府茨木市元町で計画された個人住宅建設に伴い、発掘調査を行った。調査範囲は、建設予定部分のうち、12.0㎡を対象とした。

**基本層序** 現地表は標高約11.4m前後を測る。基本層序は、現代整地土層を第1層とし層厚0.4～0.5m、第2層(2.5Y4/2暗褐色粘質土)が層厚0.05m、第3層(2.5Y3/1黒褐色粘質土に炭化物含む)が層厚0.1m、第4層(2.5Y3/2黒褐色粘質土)が層厚0.05～0.5m、第5層(2.5Y4/4オリーブ褐色砂質土に5Y5/2灰オリーブ色粘質土を含む)が層厚0.7m、第6層(7.5Y5/2灰オリーブ色粘土)が層厚0.3m、第7層(5BG4/1暗青灰色粘土)が層厚0.24m、第8層(10YR4/4褐色砂質土礫φ3～5cm含む)が層厚0.16m、第9層(10YR4/4褐色砂質土)が層厚0.34m、第10層(2.5Y3/2黒褐色粘質土)が層厚0.13m、第11層(10YR2/1黒色粘質土)が層厚0.4m、第12層(2.5Y4/1黄灰色粘質土)が層厚0.06mである。

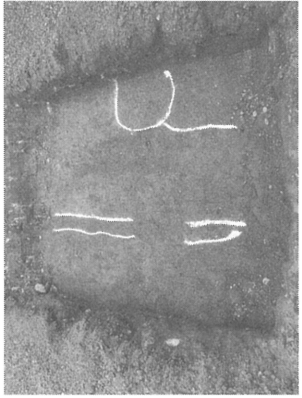
**検出遺構・出土遺物** 遺構検出は第2層上面と第5層上面にて行った。第1遺構面では溝2条、ピット1基、土坑3基を確認した。ピットからは平瓦小片と鉄製品が出土した。鉄製品は状態が悪く詳細は不明である。第2遺構面では、土坑3基と西端にて南北方向の落ち込みを確認した。土坑は第1遺構面直下であり、コビキB技法の丸瓦や近世の陶磁器が出土した。何かを燃やした跡も残っており、ごみすて坑だと思われる。西端の落ち込みからは近世の瓦と陶器が出土した。

**まとめ** 度重なる地業・改変が行われている様子からも人々が活発にこの地で活動していたことを窺い知ることができる。今回は調査対象となる茨木城に直接関連すると思われる成果はなかったが、西隣に茨木神社が鎮座していることから、神社に関連する遺構が確認される可能性がある。今後周辺で行われるであろう調査に期待したい。

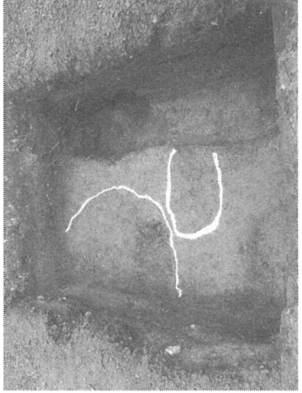


第11図 調査区配置図 (S=1/600)

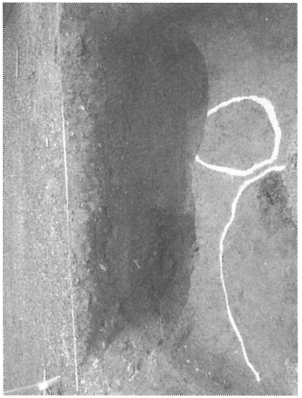




1区第1遺構面平面(西から)



1区第2遺構面平面(西から)



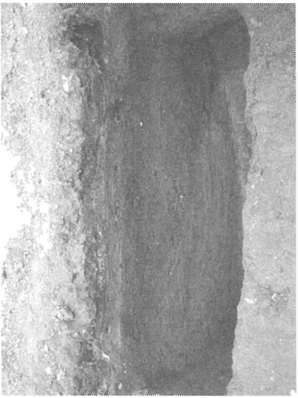
1区南壁断面



2区第1遺構面平面(西から)

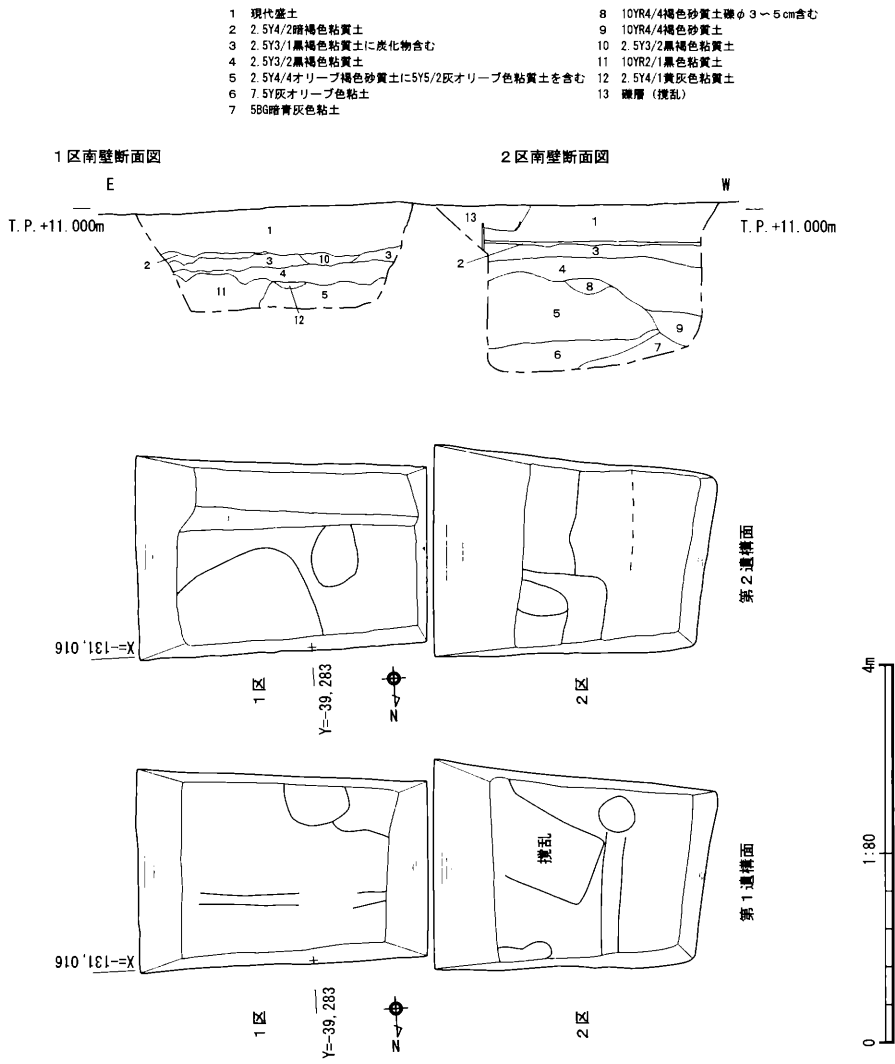


2区第2遺構面平面(西から)



2区南壁断面

第12図 発掘調査風景



第13図 調査区平断面図 (S=1/80)

## 茨木遺跡 (IK12-4)

所在地 茨木市元町1524番1

開発事業 個人住宅新築工事

調査面積 3.75㎡

調査担当 須田 佑子

### 調査結果

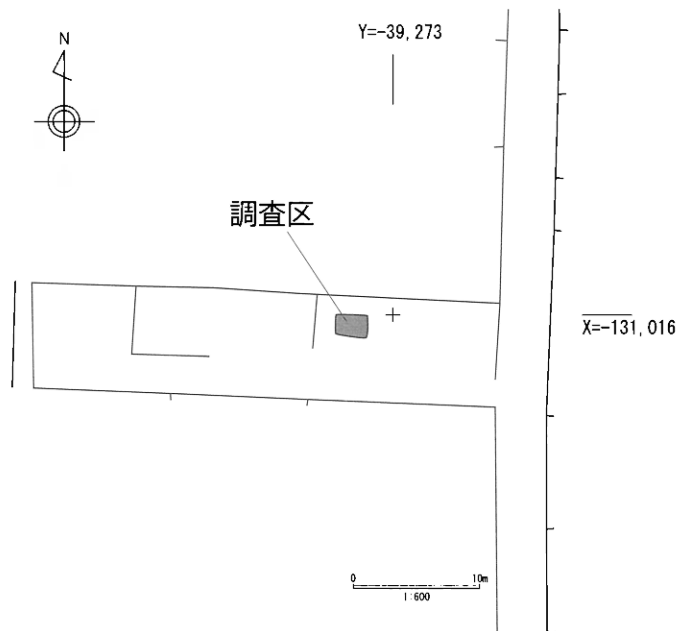
**経過** 茨木市元町で計画された個人住宅建設に伴い、発掘調査を行った。調査範囲は、建設予定部分のうち、約3.75㎡を対象とした。

**基本層序** 現地表は標高約10.9m前後を測る。基本層序は上層より、第1層(2.5Y3/2黒褐色粘質土・礫を多く含む)が層厚0.12m、第2層(2.5Y3/1黒褐色粘質土)が層厚0.08m、第3層(2.5Y3/2黒

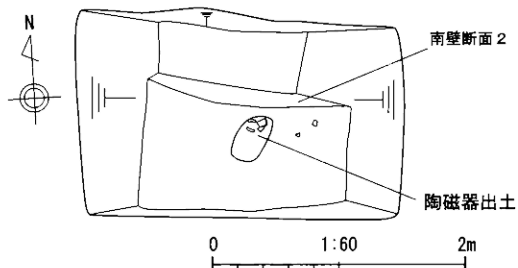
褐色粘質土・炭化物を含むに2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土含む)が層厚0.1m、第4層(2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質土に2.5Y3/2黒褐色粘質土含む)が層厚0.07m、第5層(2.5Y4/1黄灰色砂質土・遺物含む)が層厚0.06m、第6層(2.5Y4/4黄褐色粘土)が層厚0.08m、第7層(2.5Y2/1黒色粘質土・遺物含む)が層厚0.16m、第8層(2.5Y4/6オリーブ褐色粘質土・粗砂含む)が層厚0.2m、第9層(10YR4/4褐色粘質土)が層厚0.11m、第10層(2.5Y5/3黄褐色粘質土)が層厚0.15m、第11層(2.5Y5/4黄褐色極細～細砂)が層厚0.24m、第12層(2.5Y5/2暗灰黄色粘質土)が層厚0.09m、第13層(5GY4/1暗オリーブ灰色シルト)である。

**検出遺構・出土遺物** 第4層と第8層の上面でそれぞれ遺構面を検出し、ピットと土坑を確認した。第1遺構面のピットからは近世の陶磁器が出土した。第2遺構面の土坑からは丸瓦(コビキB技法)や近世の陶磁器が出土した。

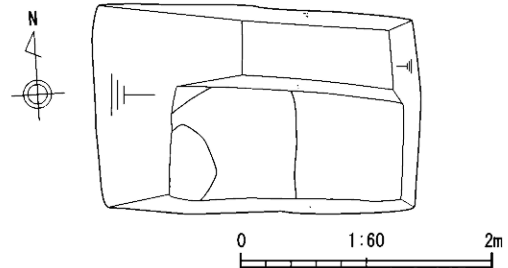
**まとめ** 先だっで行われた隣接地での調査(IK12-3)では近世以降のごみすて坑と思われる土坑が確認されたが、今回の調査でも似たような土坑を確認した。度重なる地業・改変が行われている様子から、人々が活発にこの地で活動をしていたことが窺える。今回は調査対象となる茨木城に直接関連する成果はなかったが、西隣に茨木神社が鎮座していることから神社に関連する遺構が確認される可能性がある。今後周辺にて行われる調査に期待したい。



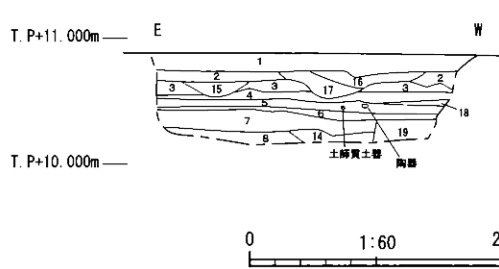
第14図 調査区位置図 (S=1/600)



第1遺構面平面図 (S = 1/60)

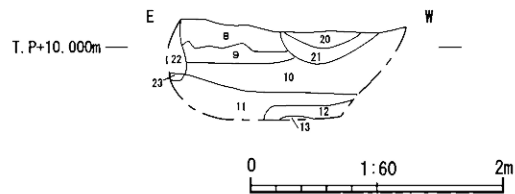


第2遺構面平面図 (S = 1/60)



南壁断面図1 (S = 1/60)

- 1 2.5Y3/2黒褐色粘質土 (礫を多く含む)
- 2 2.5Y3/1黒褐色粘質土
- 3 2.5Y3/2黒褐色粘質土 (炭化物を含む) に2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土含む
- 4 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質土に2.5Y3/2黒褐色粘質土含む
- 5 2.5Y4/1黄灰色砂質土 (遺物含む)
- 6 2.5Y4/4黄褐色粘土
- 7 2.5Y2/1黒色粘質土 (遺物含む)
- 8 2.5Y4/6オリーブ褐色粘質土 (粗砂含む)
- 14 2.5Y3/2黒褐色粘質土
- 15 2.5Y3/2黒褐色砂質土
- 16 2.5Y4/1黄灰色砂質土に10YR4/6褐色細砂がラミナ状に含む
- 17 10YR2/1黒色粘質土に2.5Y3/1黒褐色粘質土含む (植物遺体含む)
- 18 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土
- 19 2.5Y3/1黒色粘質土 (遺物含む)



南壁断面図2 (S = 1/60)

- 9 10YR4/4褐色粘質土
- 10 2.5Y5/3黄褐色粘質土
- 11 2.5Y5/4黄褐色極細～細砂
- 12 2.5Y5/2暗灰黄色粘質土
- 13 5GY4/1暗オリーブ灰色シルト
- 20 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質土に2.5Y4/6オリーブ褐色粘質土をブロック状に含む
- 21 2.5Y4/2黒褐色粘質土
- 22 10YR4/3鈍い黄褐色中～細砂
- 23 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土

第15図 平面・断面図



南壁断面1



南壁断面2



第1遺構面 (西から)



第2遺構面 (西から)

第16図 発掘調査風景

## 茨木遺跡 (IK12-5)

所在地 茨木市元町1524番3, 5

開発事業 個人住宅新築工事

調査期間 平成24年12月5日

調査面積 約6㎡

調査担当 関 梓

調査結果

**基本層序** 調査地は狭小であり、廃土置き場や作業スペースの確保などを考慮して南北2m、東西3mの範囲を設定し、発掘調査の対象とした。

以下、調査で得られた概要を報告する。

基本層序は、上層から①盛土(層厚約60cm)②10YR5/2灰黄褐色粘質土、鉄分沈着(層厚約20cm)③2.5Y5/2暗灰黄色砂質土(層厚約15cm)④5Y5/2灰オリーブ色粘性砂質土(層厚約10cm)⑤2.5Y6/2灰黄色粘質土(層厚約10cm)⑥2.5Y7/1灰白色粘性砂質土(層厚約10cm)⑦5Y6/2灰オリーブ色細砂(層厚約10cm)⑧10YR5/8黄褐色粗砂(層厚約10cm)⑨7.5Y6/1灰色細砂混じりシルト、鉄分沈着(層厚約10cm以上)の堆積であった。

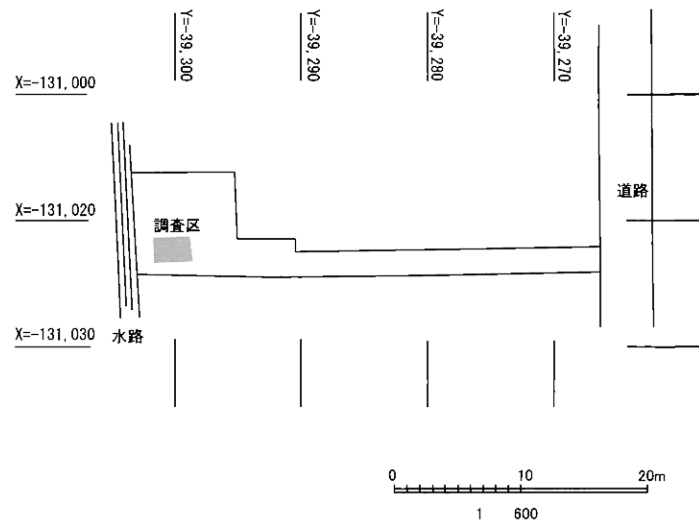
**検出遺構・出土遺物** 第8層10YR5/8黄褐色粗砂の上面において明確に南北方向の溝を確認することができた。検出した幅は1.2mをはかる。今回の調査では、調査区が狭いことから溝の一部しか掘削することができなかつたため、溝の深さは1.0m以上をはかることを確認するにとどまった。溝の埋土からは、小片ながら土師器片や瓦器片が出土していることから、検出した溝はおおよそ中世に属するものと想定される。

また、この溝は、土層断面の観察によると、ほぼ同じ地点で何度も繰り返し掘削され、比較的新しい時期まで機能していたものと思われる。それは、近現代の盛土と考える10層が、溝を埋めているように観察されるためである。

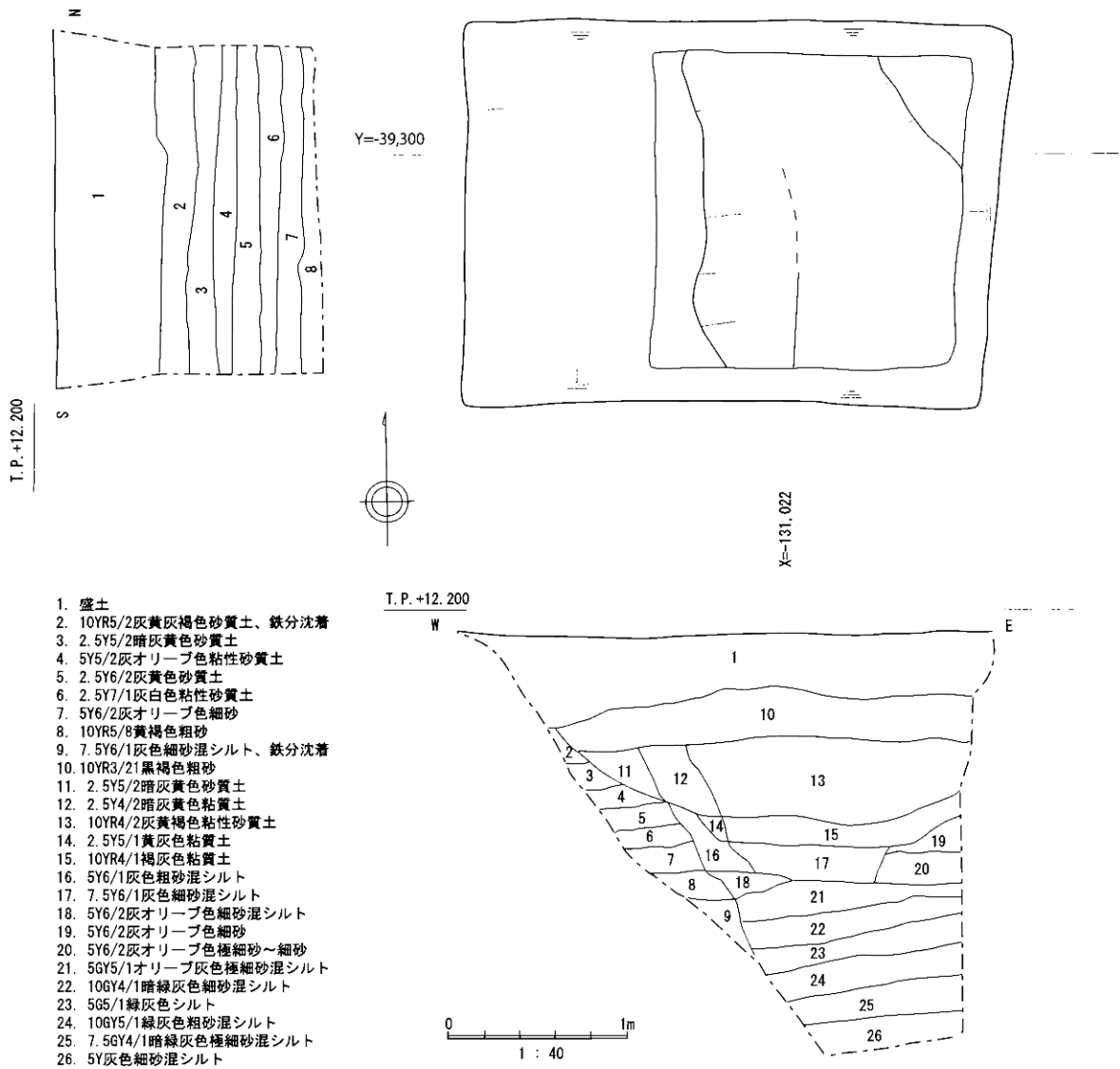
**まとめ** 今回の調査地は、茨木神社の東隣に位置し、現在の社域を画する溝がすぐ西側を南北にはしる。今回の調査で検出した溝は、この溝と同一方向のものであった。

現在、茨木城とそれを囲む城下町の復元図では、茨木神社の東側には堀がめぐるように復元されていることから、今回の溝がそれに相当する可能性は高い。

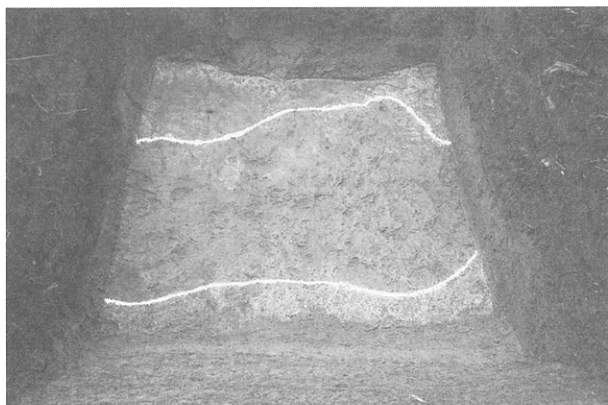
今回の調査は、面積が狭小であったため、溝の全容を解明するには至らなかった。今後、この近隣を調査するときには留意する必要があるとあり、この溝の性格については、今後の調査成果の蓄積をもって、検討する必要があるとあろう。



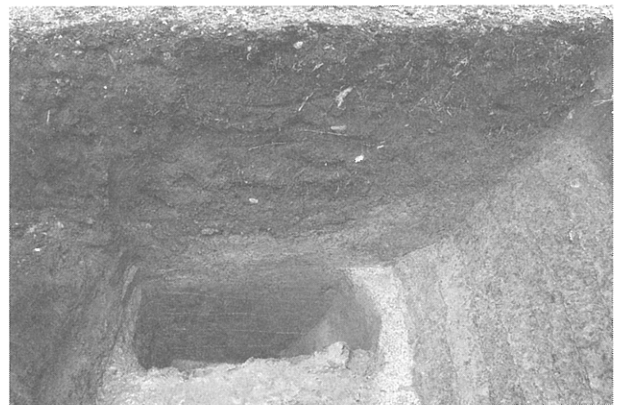
第17図 調査区配置図



第18図 調査区平面断面図



遺構検出状況 (西から)



南壁土層断面

第19図 発掘調査風景

## 太田茶臼山古墳陪塚

**位置と環境** 茨木市の北東部にある太田茶臼山古墳は、北摂山地の南端部にあたる富田台地に位置する古墳時代中期の大型前方後円墳である。太田茶臼山古墳は、全長226mをはかり、宮内庁により継体天皇陵に治定されているが、考古学的な研究の進展などから太田茶臼山古墳の築造時期は継体天皇の時期よりも古い5世紀代であり、6世紀代に築造された高槻市の今城塚古墳が真の継体天皇陵として有力視されている。

太田茶臼山古墳には、後円部外辺域に墳丘規模が20m程度の円墳・方墳・前方後円墳など7基が確認されている。消滅した古墳もあると思われることから、本来はもう少し多かつたものと思われる。

太田茶臼山古墳近隣における既往の調査として、大阪府教育委員会が昭和47年に後円部西側で行った調査を挙げることができる。この調査では、古墳の外周を廻る埴輪列が確認されており、太田茶臼山古墳の築造当時の様相や時期を知る上で特に貴重な成果といえる。

近年では、平成22年に茨木市教育委員会が調査をおこなっている。調査では、外堤の盛土と思われる土層を確認し、円筒埴輪片も出土した。原位置を保持して出土した埴輪はなく、土師質のものや須恵質のものも混在している。埴輪の器壁は摩耗し、調整の観察は困難なものが多い。この調査では、太田茶臼山古墳後円部周辺は、近年の宅地造成により地形の改変が著しい様子も確認されている。

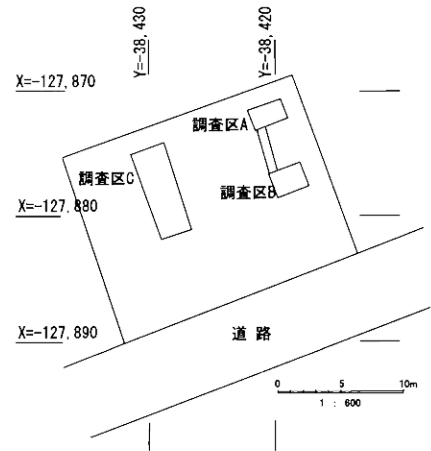
今年度の調査は、太田茶臼山古墳後円部の東側に位置する陪塚の近隣地において、個人住宅の建設に伴い実施した調査地12-1と調査地12-2の2か所である。



第20図 調査地位置図

# 太田茶臼山古墳陪塚（OCB12-1）

**所在地** 茨木市高田町1-47  
**開発事業** 個人住宅新築工事  
**調査期間** 平成24年5月22日～平成24年5月23日  
**調査面積** 約30㎡  
**調査担当** 関 梓  
**調査結果**



第21図 調査区配置図

**基本層序** 現地表面は、標高約31.7mをはかる。現地表面（GL）から約-0.3～-0.6mで地山を確認した。確認できた土層は、地山を除くとすべて宅地造成時に形成された土層である。

**検出遺構** 今回の調査では、一日目、調査区Aを南北1.5m、東西2.5mで設定し、掘削を開始した。しかし、調査区が攪乱の中に位置しており、基本層序の確認ができないため、調査区Bを南北2.4m、東西2.8mと設定し掘削を行った。調査区Bでは、盛土除去後、現地表面から-0.6mで地山を確認した。このことから、調査区Aでは遺跡に関する情報を得られなかったため、調査区A・Bの間にトレンチを設定した。その結果、A区北端から約3.8mの地点まで、B区と同じ様相の層序が続くことを確認した。

二日目は、一日目の調査区から西に7mの地点に調査区Cを南北7.25m、東西2.5mと設定し、調査を行った。調査区Cにおいても調査区Bと同様に盛土除去後、現地表面から-0.3mで地山を確認し、調査区北側において調査区Aからつづく攪乱の南端を確認した。

**出土遺物** 今回の調査では遺物は出土しなかった。

**まとめ** 今回の調査から、調査地周辺は宅地造成時に大規模な改変をうけていると考えられる。調査地は地形が大きく北側に向かって標高を下げているため、A区は元々北側に向かって下っていた地形を造成時に盛土した範囲にあたるものと考えられる。



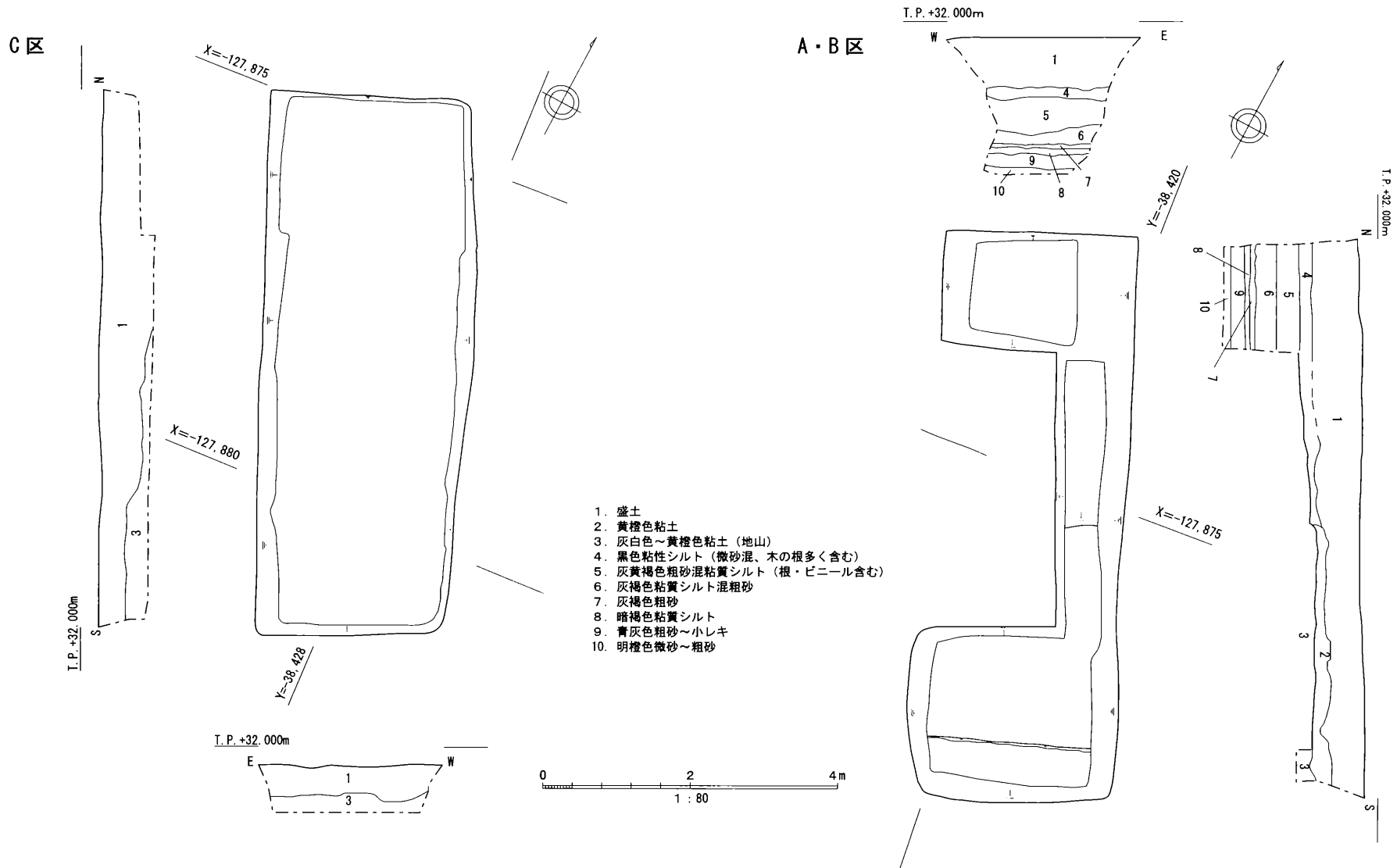
C区平面状況



A.B区間トレンチ平面状況

第22図 発掘調査風景

第23図 調査区平面断面図





## 太田茶臼山古墳陪塚 (OCB12-2)

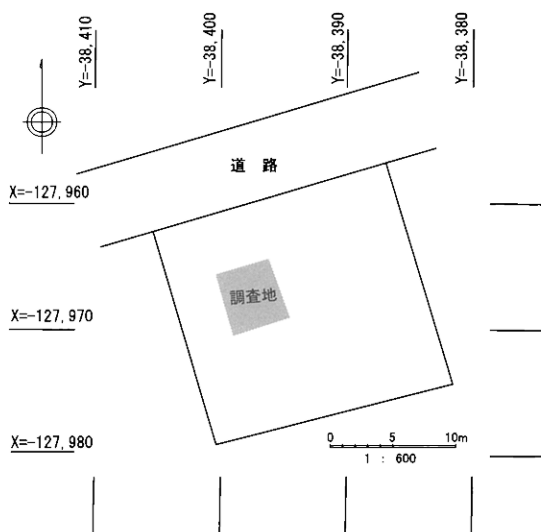
所在地 茨木市高田町1番101  
 開発事業 個人住宅新築工事  
 調査期間 平成24年12月21日(金)  
 調査面積 約20㎡  
 調査担当 関 梓  
 調査結果

**基本層序** 現地表面は、標高約31.7mをはかる。現地表面 (G L) から約-0.3mで地山を確認した。地山の上層は後世の盛土であり、この土地の宅地造成時のものであると考えられる。

**検出遺構** 今回の調査では、遺構は確認されなかった。

**出土遺物** 今回の調査では遺物は出土しなかった。

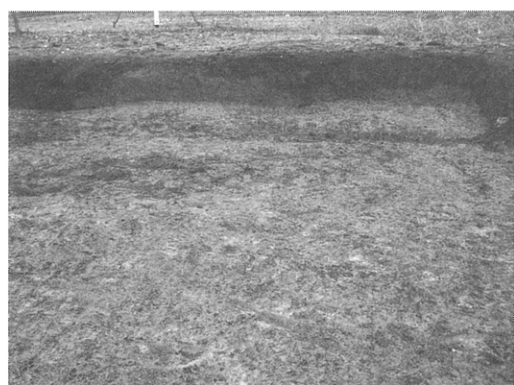
**まとめ** 今回の調査から、太田茶臼山陪塚付近の土地は、宅地造成時に大きく削平をうけていると考えられる。



第24図 調査区配置図

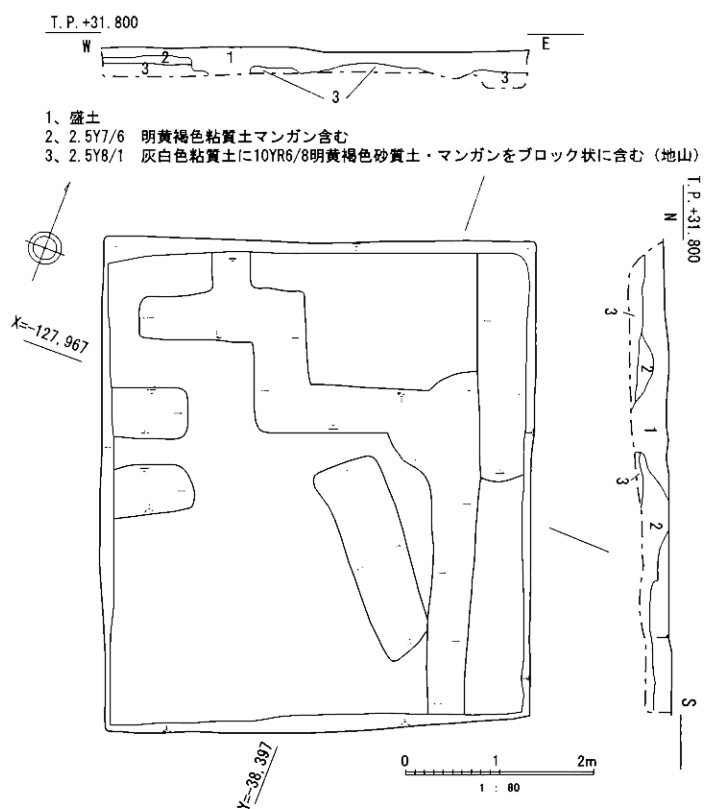


平面状況 (南から)



東壁土層断面

第25図 発掘調査風景



第26図 調査区平面断面図

## 郡 遺 跡

**位置と環境** 郡遺跡は弥生時代から中世にかけての複合遺跡である、遺跡範囲は、名神高速道路茨木インターチェンジを中心とした東西1 km、南北1.5kmに広がる。その地名から島下郡の郡衙跡であると考えられている。

当遺跡の発見は昭和29(1954)年、郡神社の南側の丘陵を切り開いて児童公園を造った際、掘り起こされた土の中から弥生土器片が発見されたのが最初である。また、昭和38(1963)年、名神高速道路建設予定地において調査した結果、多量の弥生時代の土器や須恵器が出土したことから、広範囲に広がる遺跡であることが確認された。昭和48(1973)年、インターチェンジのすぐ南側(上穂積4丁目)で計画された宅地開発に伴う発掘調査では、弥生時代中期から後期にかけての方形周溝墓・竪穴住居跡、井戸や溝、古墳時代の馬の墓や十数基の古墳が確認された。また奈良時代から平安時代にかけて建物跡も発見されたが、島下郡衙跡と確認できる発見はなかった。昭和52(1977)年、遺跡の東側にある畑田町で小学校建設に先立つ発掘調査が行われ、遺跡西側と同時期の遺構や遺物が出土し、地域的な関係から、郡遺跡の延長であることが確認された。

**参考文献** 茨木市教育委員会 1998 『茨木の史跡』



第27図 調査地位置図 (S=1/5000)

## 郡 遺 跡 (KH12-2)

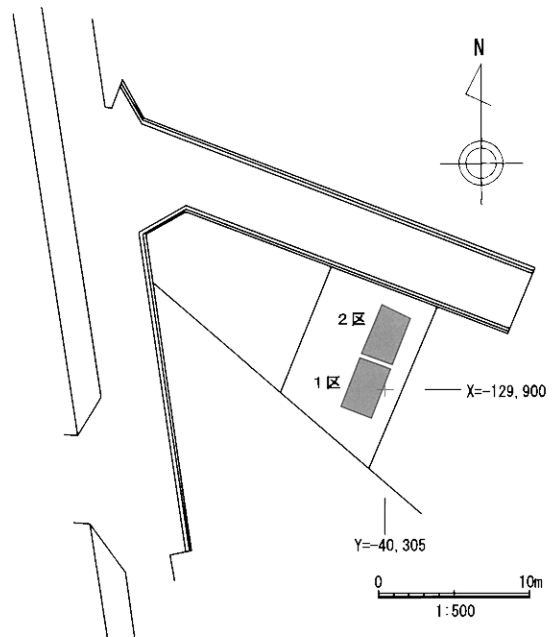
所在地 茨木市上穂積4丁目8-7  
開発事業 個人住宅建築  
調査期間 平成24年7月19日～20日  
調査面積 14㎡  
調査担当 須田 佑子  
調査結果

**経過** 大阪府茨木市上穂積で計画された個人住宅建設に伴い、発掘調査を行った。調査範囲は、建設予定部分のうち14㎡を対象とした。

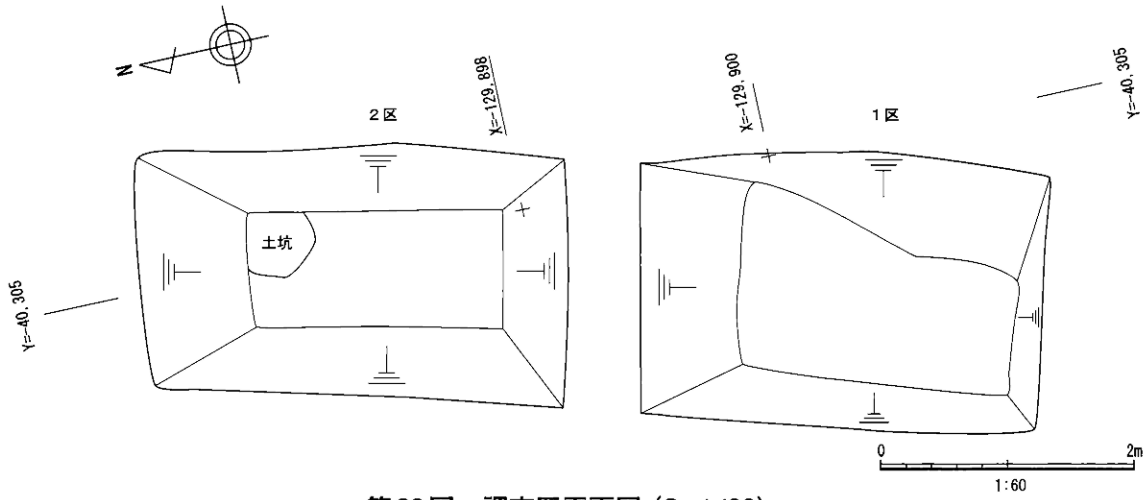
**基本層序** 現地表は標高約20.7mを測る。層序は上層より第1層の現代盛土層が層厚1.15m、第2層(10YR3/2黒褐色シルト、旧耕土)が層厚0.15m、第3層(5Y5/6オリーブ色砂質土、床土)が層厚0.03m、第4層(2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土に7.5Y5/1灰色砂質土をブロック状に含む)が層厚0.13m、第5層(2.5Y5/4黄褐色粘質土)が層厚0.05m、第6層(2.5Y5/4黄褐色粘質土マンガン含む)が層厚0.14m、第7層(2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土マンガン含む、包含層)が層厚0.1m、第8層(2.5Y5/2暗灰黄色粘質土、地山)である。なお、1日目の1区ツボ掘りの際、地山と判断し掘削を止めたのは第5層の上面であったが、2日目の深掘りの際に第8層が地山と判明した。

**検出遺構・出土遺物** 2区の北東において時期不明の土師器を伴った土坑を確認した。他の遺物は第4層から古代の丸瓦、第7層・第9層から弥生土器底部、平安時代の須恵器・黒色土器、時代不明の土師器が出土した。第9層は平面精査時には検出できなかったが遺構埋土と思われる。

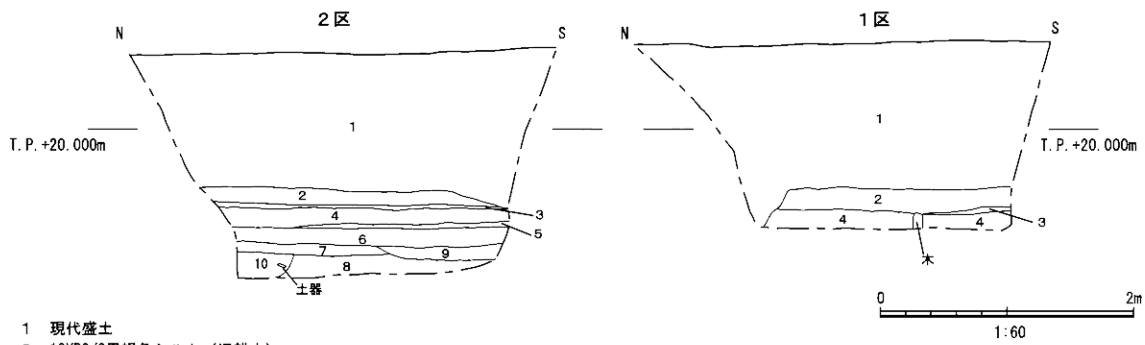
**まとめ** 今回の調査区は地山直上において平安時代以降に整地が行われたものとする。当調査地から東へ約50mの場所にて行われた昭和48年度調査では、弥生時代・古墳時代・奈良時代の遺物や遺構が多く確認され、奈良時代の役所であった島下郡衙との関係が考えられている。今回は古代の瓦が出土したものの役所や寺院などと直接関連づけるには根拠が少ない。今後周辺にて行われるであろう調査の一助になることを期待する。



第28図 調査区配置図 (S=1/500)

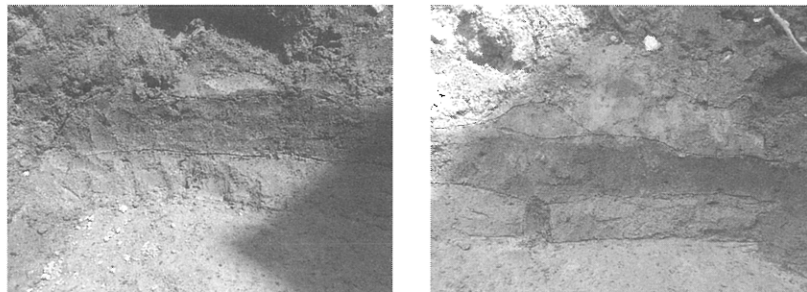


第29図 調査区平面図 (S=1/60)



- 1 現代盛土
- 2 10YR3/2黒褐色シルト (旧耕土)
- 3 5Y5/6オリーブ色砂質土 (床土)
- 4 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土に7.5Y5/1灰色砂質土をブロック状に含む
- 5 2.5Y5/4黄褐色粘質土
- 6 2.5Y5/4黄褐色粘質土マンガン含む
- 7 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土マンガン含む (包含層)
- 8 2.5Y5/2暗灰黄色粘質土 (地山)
- 9 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土
- 10 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土 (マンガン含む) に2.5Y6/6明黄褐色粘質土をブロック状に含む (遺構埋土)

第30図 東壁断面図 (S=1/60)



1区東壁断面状況



2区東壁断面状況

第31図 発掘調査風景

## 郡 遺 跡 (KH12-3)

所在地 茨木市上穂積4丁目758-4、757-14

開発事業 個人住宅新築工事

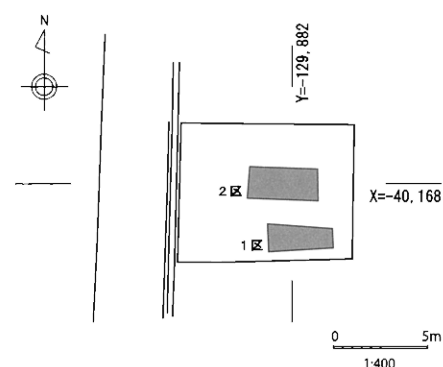
調査期間 平成24年8月16・17日

調査面積 11.5㎡

調査担当 須田 佑子

調査結果

**経過** 大阪府茨木市上穂積で計画された個人住宅建設に伴い、発掘調査を行った。調査範囲は、建設予定部分のうち、11.5㎡を対象とした。

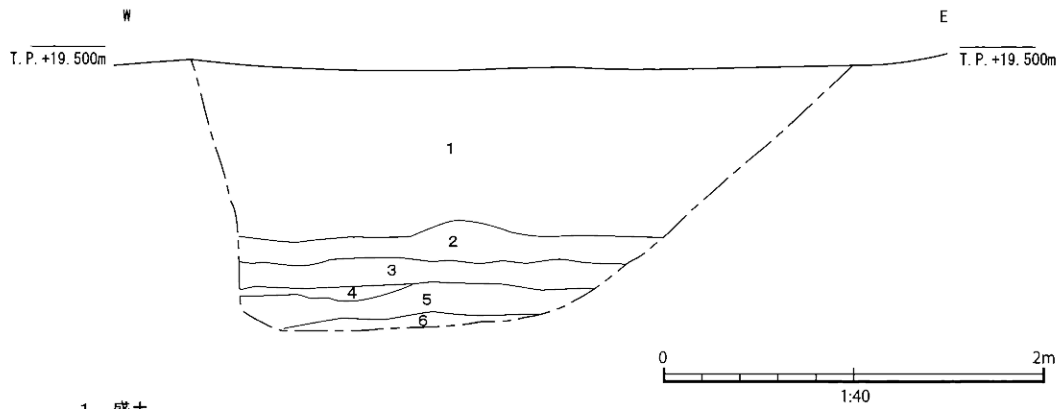


第32図 調査区位置図 (S=1/400)

**基本層序** 現地表面は標高約19.5mを測る。基本層序は上層より第1層の現代盛土層が層厚0.9m、第2層(2.5Y3/1黒褐色砂質土、旧耕土)が層厚0.1m、第3層(5Y4/2灰オリーブ色砂質土に5Y4/1灰色砂質土含む、整地土)が層厚0.15m、第4層(10YR3/2黒褐色砂質土、流れ込み)が層厚0.05m、第5層(7.5YR3/1黒褐色粘質土、包含層)が層厚0.15m、第6層(2.5Y4/4オリーブ褐色砂質土、地山)である。

**検出遺構・出土遺物** 調査区の南側に設定した1区は重機による掘削後に前日の雨の影響によって南壁面が崩落したため、トレンチ内に入ることは危険と判断し、北壁断面の写真撮影を行ったのち埋め戻した。その後、2区を調査地の中央に配置した。北壁断面を精査中に土師器片を包含した土層(第4層)を確認したが、しまりが悪く窪地などへの流れ込みによるものと思われる。遺物はこの土師器片の他に、盛土層から土師器小片が出土したが、いずれも時期を特定することはできなかった。

**まとめ** 当地は島下郡衙と推定されている郡遺跡の包蔵地内にあり、当調査地から西へ約40mの場所にて昭和48年度調査が行われた。その際、弥生時代・古墳時代・奈良時代の遺物や遺構が多く確認され、郡衙と関係があるのではないかと考えられている。今回の調査では主だった成果は得られなかったが、当地周辺から遺構、遺物が確認される可能性は高い。今後行われる調査に期待したい。



- 1 盛土
- 2 5Y3/1黒褐色砂質土に5Y4/4暗オリーブ色粘質土と10YR4/2灰黄褐色粘質土をブロック状に含む（旧耕土）
- 3 5Y4/2灰オリーブ色砂質土に5Y4/1灰色砂質土含む（整地土）
- 4 10YR3/2黒褐色砂質土（流れ込みによる層・土器片含む）
- 5 7.5YR3/1黒褐色粘質土（包含層）
- 6 2.5Y4/4オリーブ褐色砂質土（地山）

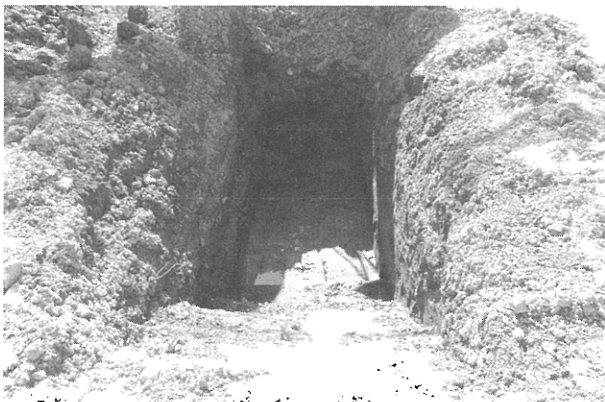
第33図 2区北壁断面図 (S=1/40)



1区南壁崩落状況



1区北壁断面状況



2区平面状況



2区北壁断面状況

第34図 発掘調査風景

## 郡 遺 跡 (KH12-4)

所在地 茨木市上穂積四丁目2-15  
 開発事業 個人住宅建設  
 調査期間 平成24年11月5日  
 調査面積 2.55㎡  
 調査担当 木村 健明  
 調査結果

はじめに 今回の調査は個人住宅建築に伴い地盤改良が現地表面(GL)から1.0mまでおこなわれるために実施することになった。

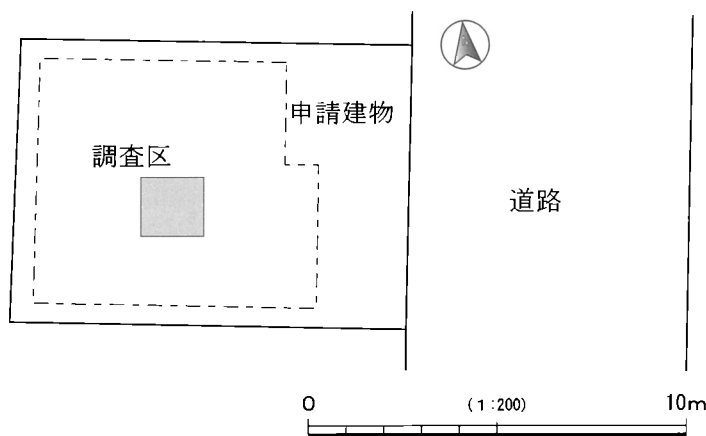
基本層序 GL-0.8mまでは盛土である。盛土は黄褐色粘土や青灰色砂礫など複数の層からなる。盛土以下は1層(暗灰色礫混じり粘質シルト[旧耕作土]・厚さ0.1m)、2層(黄褐色礫混じり粘土・厚さ0.1m)、3層(青灰色砂礫・厚さ0.1m)、4層(黄褐色粘土[地山]・厚さ0.1m以上)である。1層に礫を多く含むのは、盛土内の礫が押し込まれたためと考えられる。

検出遺構・出土遺物 GL-0.9mの2層上面で遺構の確認をおこなったが、遺構は確認できなかった。また、下層確認のため、部分的に1.0m以下まで掘削をおこない、GL-1.1mで黄褐色粘土層の地山を確認した。しかし、検出部分では遺構を確認していない。また、今回の調査では遺物は出土していない。

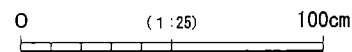
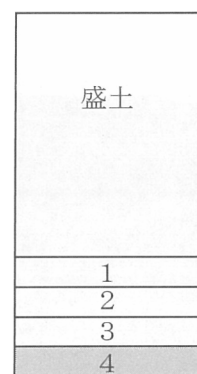
まとめ 今回の調査は、1.7m×1.5mのトレンチ1箇所を敷地中央部に設定しておこなった。

その結果、遺構・遺物ともに確認できなかったが、GL-1.1mで地山層を確認した。

東側に位置する昭和48年度調査では、弥生時代～平安時代の遺構が確認されており、周辺には遺構が存在していると思われ、今後も注意が必要である。



第35図 調査区位置図

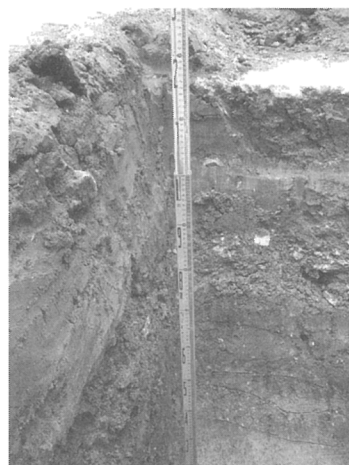


- 1 暗灰色礫混じり粘質シルト
- 2 黄褐色礫混じり粘土
- 3 青灰色砂礫
- 4 黄褐色粘土(地山)

第36図 土層断面柱状図



調査地全景(東から)



土層断面(東から)

第37図 発掘調査風景

# 太田廃寺跡 (OTH12-1)

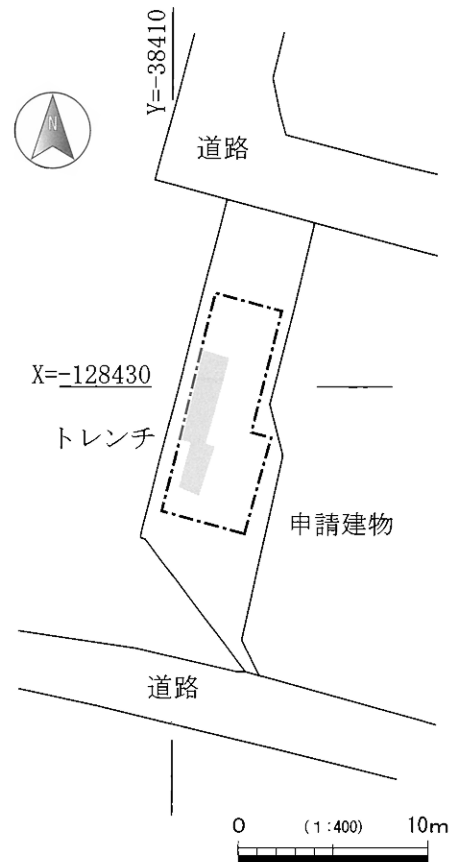
所在地 茨木市東太田二丁目248-6の一部  
 開発事業 個人住宅新築工事  
 調査期間 平成24年5月23・24日  
 調査面積 9㎡  
 調査担当 木村 健明  
 調査結果

**経過** 太田廃寺跡は、北摂山地の南端部である低位段丘上(富田台地)上に所在する。明治40年には、現在東京国立博物館に所蔵されている舍利容器を納めた塔心礎が掘り出されている。更に北側では瓦も採取されており、法隆寺式伽藍配置の可能性が考えられている。これらの遺物から、7世紀後半に建立された寺院と考えられるが、詳細な状況は不明なまま住宅地となっている。

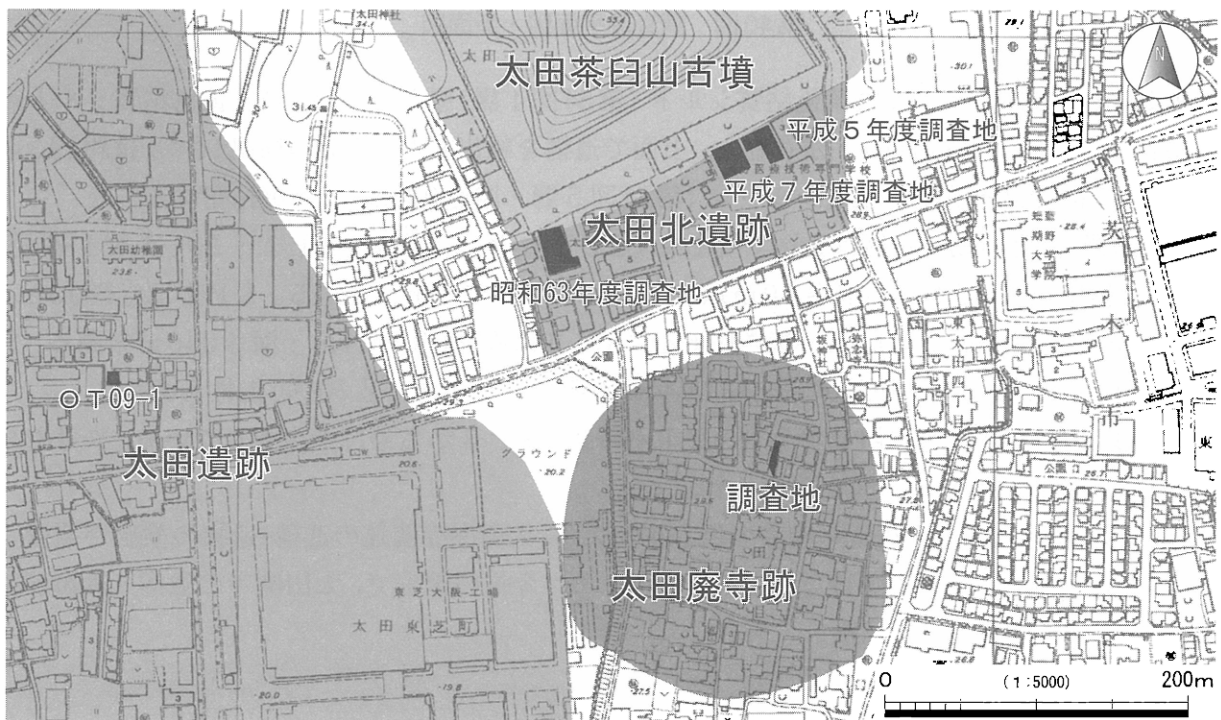
今回の調査は、個人住宅新築工事に伴い地盤改良工事が現地表面(GL)から-0.4~1.8mまでおこなわれるために実施することになった。調査は南側(以下A区)から掘削をおこなった。

A区では現地表下1.5mまで掘削をおこなったが、湧水が著しく、遺構は確認できなかった。B区では、現地表下0.7mで暗灰黄色土が面的に広がっており、上面で遺構を確認した。

**基本層序** 現地表は標高約30.0m前後を測る。層序は盛土がB区で0.7m、A区で1.0mの厚さ

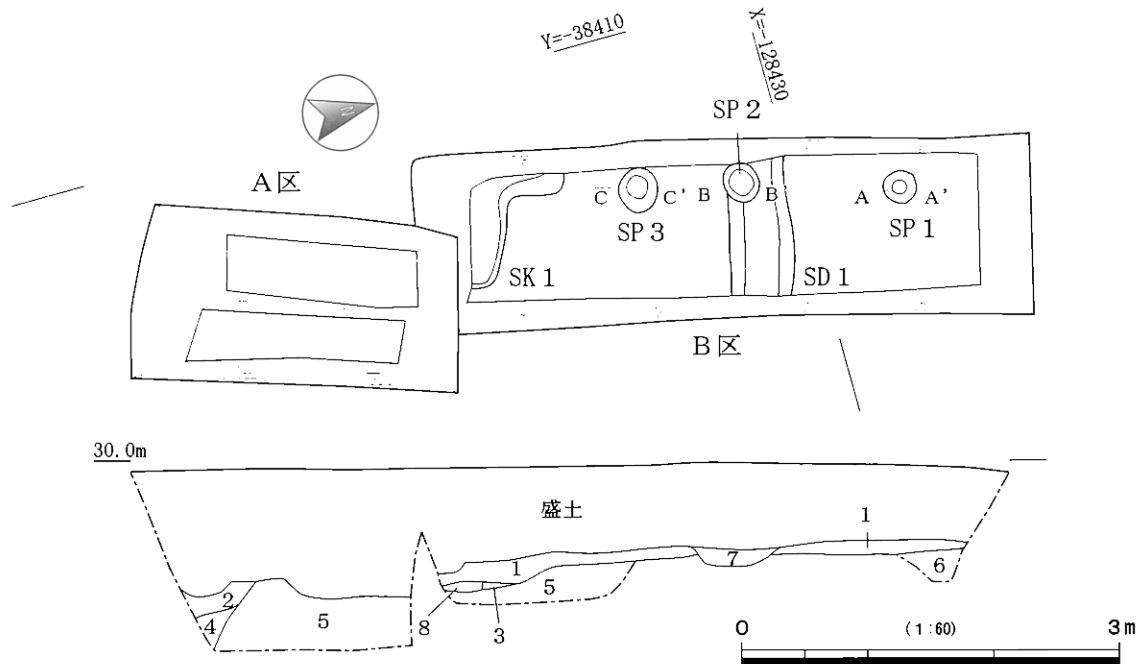


第38図 調査区位置図

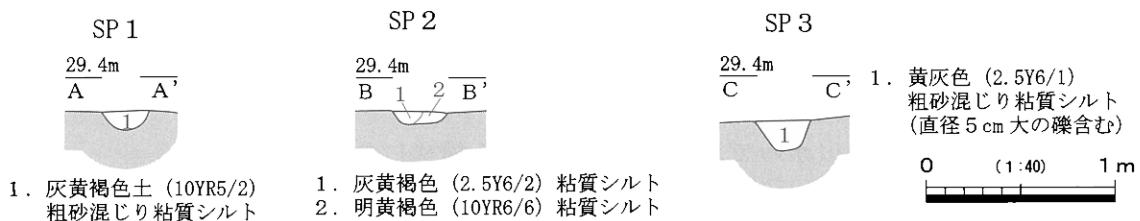


第39図 調査地位置図





1. 灰黄褐色 (10YR6/2) 粘質シルト (明黄褐色 (10YR6/6) 粘土ブロック含む)
2. 黄橙色 (10YR7/8) 粗砂混じり粘質シルト
3. 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質シルト
4. 褐灰色 (10YR6/1) 粘質シルト (直径 10cm 大の円礫を含む)
5. 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗砂混じり粘質シルト (直径 10cm 大の円礫を含む)
6. 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粗砂混じり粘質シルト (固くしまる)
7. 褐灰色 (10YR6/1) 粘質シルト (SD 1)
8. 灰黄褐色 (10YR6/2) 粗砂混じり粘質シルト (明黄褐色 (10YR6/6) 粘質シルト混じる) (SK 1)



第40図 調査区平面図・断面図

を測る。B区では盛土下に灰黄色粘質シルト (第54図1層・厚さ0.1m)、暗灰黄色粘質シルト層 (第54図6層・厚さ0.3m以上) が存在し、上面で遺構を検出した。遺構の検出レベルは約29.3mである。A区では灰黄褐色粘質シルト層 (第54図5層・厚さ0.4m以上) が存在する。

**検出遺構・出土遺物** 遺構はB区で溝1条 (SD 1)、ピット3基 (SP 1～3)、土坑1基 (SK 1) を検出した。SD 1は長さ1.0m以上・幅0.5m・深さ0.06mを測る。SP 1は直径0.3m・深さ0.1m、SP 2は直径0.3m・深さ0.06m、SP 3は直径0.3～0.4m・深さ0.16mを測る。SK 1はB区の南端で検出したが、全体の形状は不明で自然の落ち込みの可能性もある。

遺物はB区の1層で磁器・土師器、SD 1から瓦、SP 3から染付が出土している。染付や瓦の出土から遺構の時期は近世と考えられる。

**まとめ** 今回の調査は周辺の調査事例が少ない中、太田廃寺関連の遺構・遺物の検出が期待されたが、近世の遺構・遺物を確認したにとどまった。今後の調査で、太田廃寺の遺構・遺物が確認されることを期待したい。

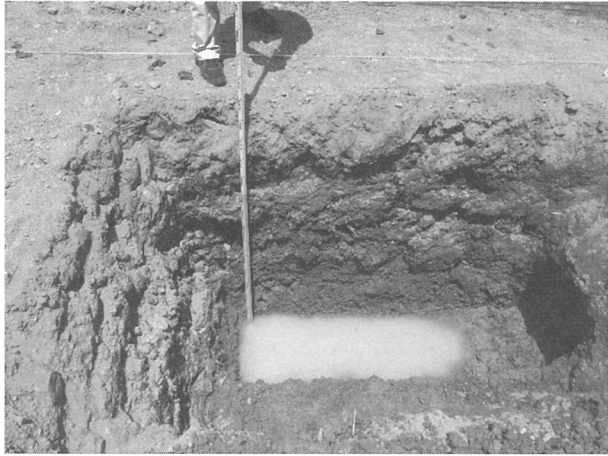
参考文献 茨木市 1969 『茨木市史』



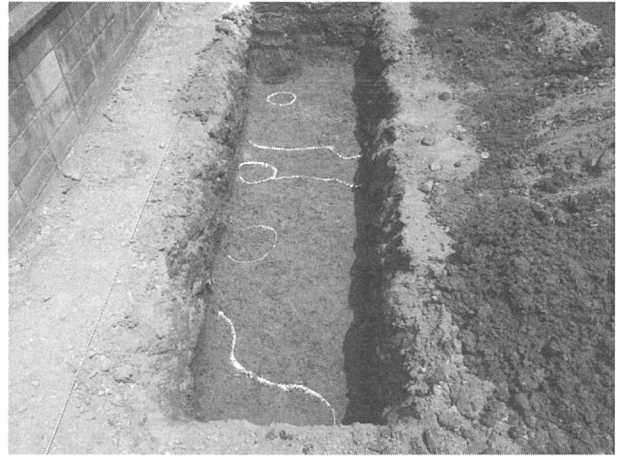
調査区全景 (北から)



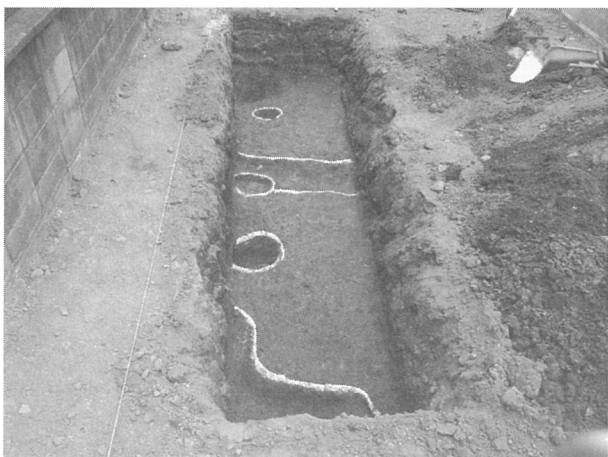
A区全景 (南から)



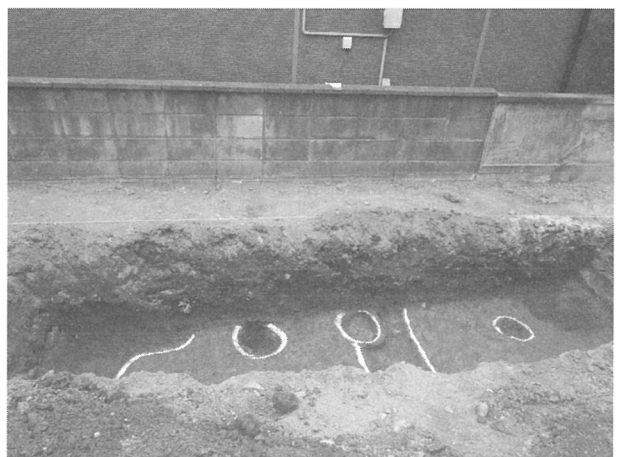
A区西壁 (東から)



B区遺構検出状況 (南から)



B区完掘状況 (南から)



B区西壁 (東から)

第41図 発掘調査風景

## 総持寺遺跡 (S J 12-2)

所在地 茨木市西河原二丁目  
48番1・48番3-2

開発事業 個人住宅新築工事

調査期間 平成24年8月23・24日

調査面積 22.5㎡

調査担当 木村 健明

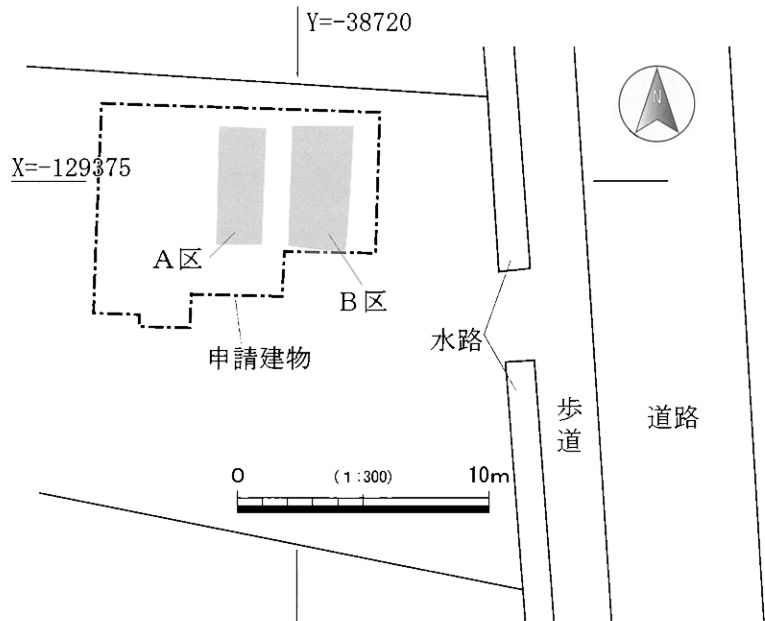
調査結果

**経過** 総持寺遺跡は、北摂山地の南端部である低位段丘上(富田台地)及び、西側の沖積地にかけて立地する遺跡である。今回の調査地は沖積地部分に位置する。周辺では平成10年度に西側で調査がおこなわれ、縄文時代晩期～弥生時代前期の土坑、古墳時代後期の自然河道などが検出されている。

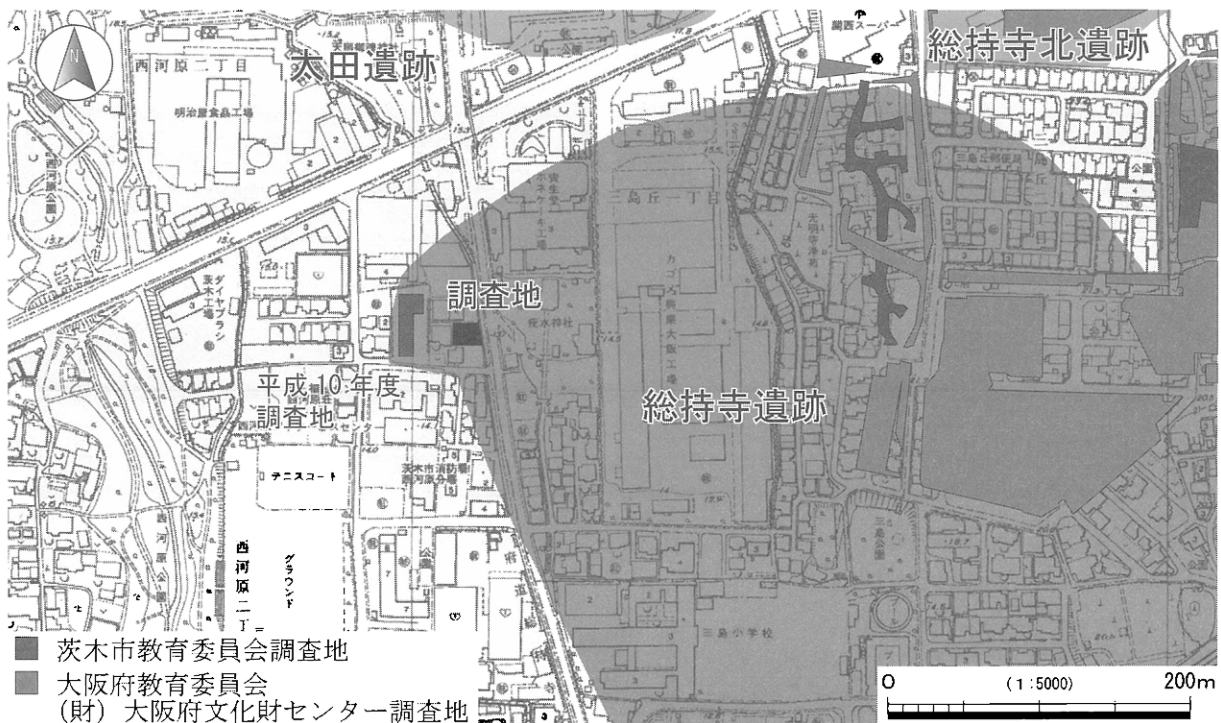
今回の調査は、個人住宅新築工事に伴い、柱状改良工事が現地表面(G L)から、-1.5～2.75mまでおこなわれるために実施することになった。調査は西側(以下A区)から開始し、次に東側(以下B区)を実施した。

A区ではG L - 1.5mまで、B区ではG L - 1.3mまで掘削をおこなった。

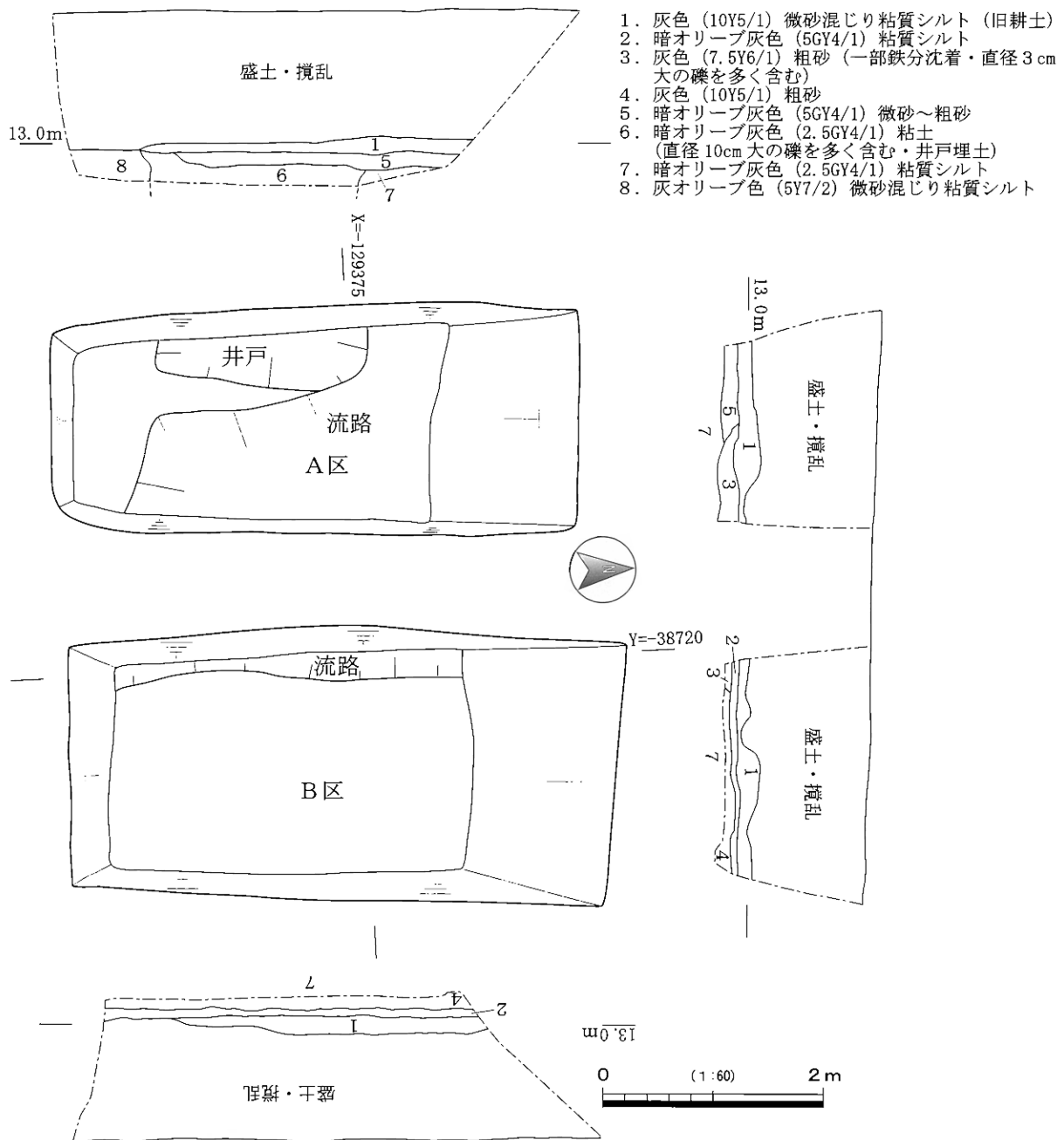
**基本層序** 現現地表面は標高約14.2m前後を測る。層序は両地区共通で、盛土が1.1～1.2mの厚さを測る。盛土直下には旧耕作土である灰色微砂混じり粘質シルト(第57図1層・厚さ0.2m)



第42図 調査区位置図



第43図 調査地位置図

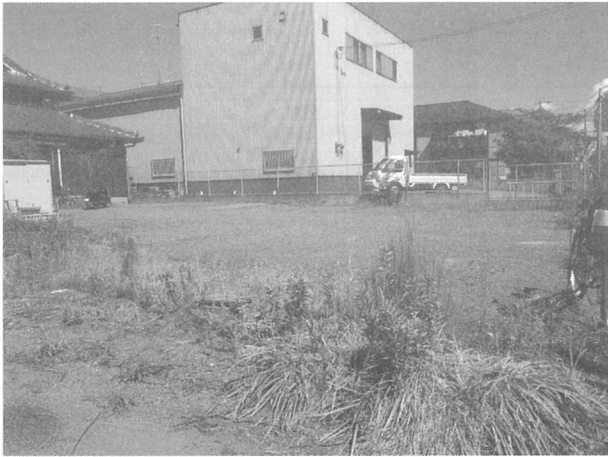


第44図 調査区平面図・断面図

が存在し、以下は灰色粗砂（5層・厚さ0.2m）、暗オリーブ褐色粘質シルト（7層・厚さ0.3m以上）など流路の堆積が認められる。

**検出遺構・出土遺物** 遺構はいずれも湧水が認められたため上面の確認にとどめたが、A区で流路1条・井戸1基、B区で流路1条を検出した。双方の流路は同一のもので幅は3mとなる可能性がある。遺物は出土しなかった。

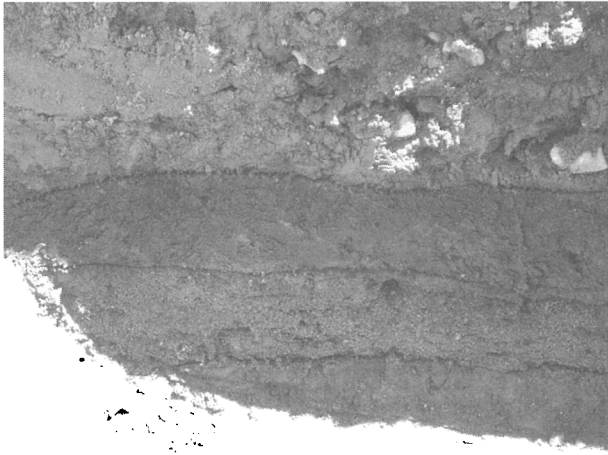
**まとめ** 今回の調査は、総持寺遺跡の中でも台地の裾に広がる沖積地に位置する。調査の結果、流路と井戸を確認したが、湧水も認められるため、生活の場には適していなかったと思われる。



調査区全景 (南から)



1区全景 (北から)



1区東壁 (西から)



1区西壁 (東から)



2区全景 (北から)



2区東壁 (西から)

第45図 発掘調査風景

## 中条小学校遺跡 (CJ12-2)

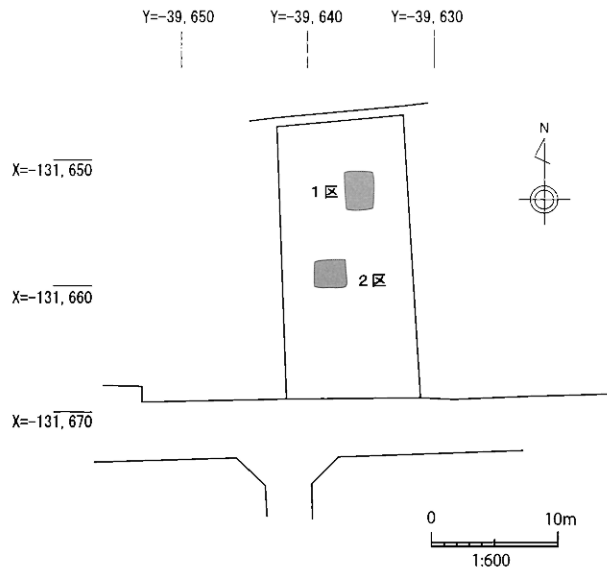
所在地 茨木市下中条町45番2  
 開発事業 個人住宅新築工事  
 調査期間 平成24年9月10・11日  
 調査面積 10.4㎡  
 調査担当 須田 佑子  
 調査結果

**経過** 当該地は千里丘陵からのびる低位段丘と茨木川が形成した沖積面に立地する、弥生時代中期から中世にかけての複合遺跡である中条小学校遺跡の遺跡包蔵地内にある。遺跡範囲は東西400m、南北1kmを測る。

今回の調査地は、個人住宅建設に伴い発掘調査を行った。調査範囲は、建設予定部分のうち、約10.4㎡を対象とした。

**基本層序** 現地表は標高約10.8mを測る。基本層序は上層より第1層の現代盛土層が層厚0.6m、第2層(10YR3/1黒褐色粘質土・旧耕土)が層厚0.2m、第3層(10YR4/4褐色粘質土・床土)が層厚0.04m、第4層(2.5Y6/3にぶい黄色砂質土)が層厚0.15m、第5層(2.5Y5/3黄褐色砂質土)が層厚0.18mである。

**検出遺構・出土遺物** 第5層上面にて遺構検出を行った。その結果、1区では遺物、遺構は確認できなかったが、2区でピット、土坑、東西方向にのびる流路を検出した。遺物は旧耕土から



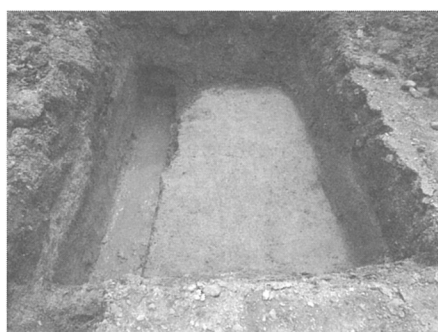
第46図 調査区配置図 (S=1/600)



第47図 調査地位置図

近現代の瓦と時代不明の土師器片が出土したのみで、遺構内からの出土はなかったため、各遺構の時期は不明である。

まとめ 第4層、第5層は周辺の調査にて確認されている中世包含層と弥生時代後期～古墳時代の包含層に相当すると考えられるが、層中から遺物が出土しなかったため判断はできなかった。当遺跡内では各地で遺構・遺物が多く確認されており、今後周辺にて行われる調査に期待したい。



1区平面状況(北から)



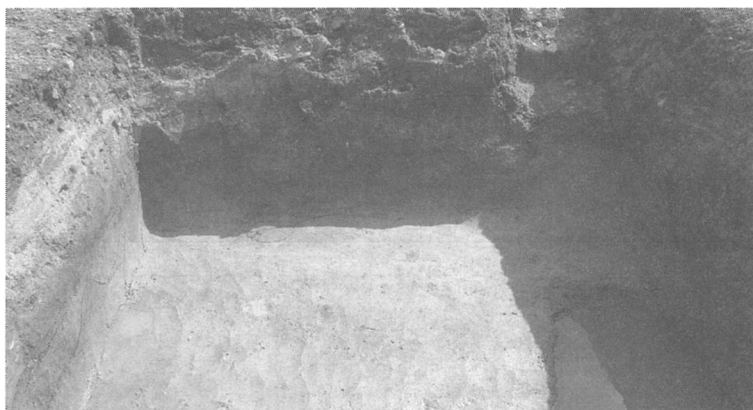
1区東壁断面状況



2区平面状況(北から)

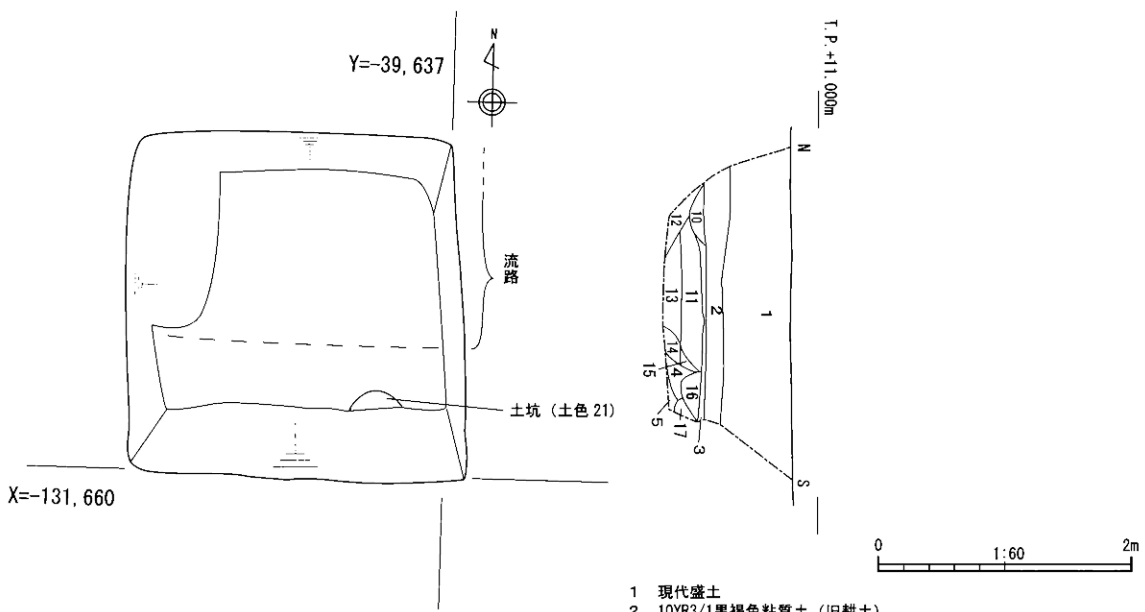
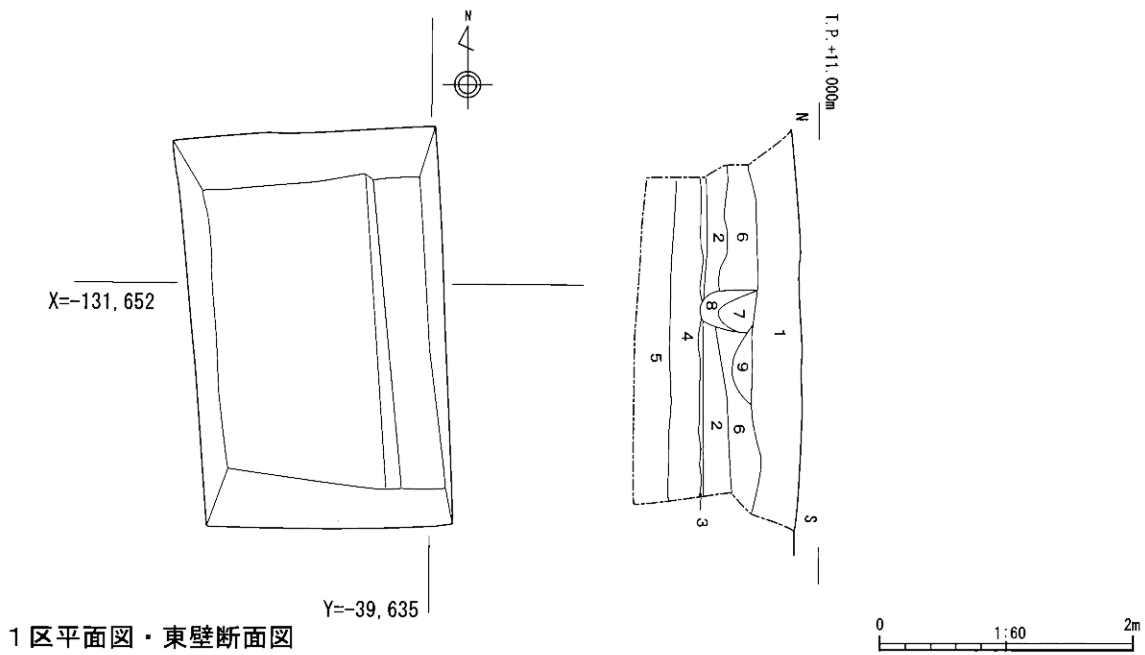


2区東壁断面状況



2区南壁断面状況

第48図 発掘調査風景



- 1 現代盛土
- 2 10YR3/1黒褐色粘質土 (旧耕土)
- 3 10YR4/4褐色粘質土 (床土)
- 4 2.5Y6/3にぶい黄色砂質土
- 5 2.5Y6/3にぶい黄色砂質土鉄分多く含む
- 6 2.5Y7/6明褐色中へ粗砂 (盛土)
- 7 2.5Y3/2黒褐色粘質土礫含む
- 8 2.5Y3/2黒褐色粘質土
- 9 N1.5/黒色 (炭化物層)
- 10 10YR4/4褐色砂混じり粘質土
- 11 10YR4/2灰黄褐色砂混じり粘質土
- 12 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂
- 13 10YR4/2灰黄褐色細粒砂
- 14 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂
- 15 10YR4/4褐色粘質土
- 16 10YR3/2黒褐色粘質土
- 17 10YR4/2灰黄褐色粘質土
- 18 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土
- 19 10YR3/2黒褐色粘質土 (炭化物含む)
- 20 10YR3/2黒褐色粘質土 (炭化物含む)
- 21 10YR3/2黒褐色粘質土
- 22 2.5Y5/2黄灰色粘質土に2.5Y4/2暗灰黄色砂質土をブロック状に含む
- 23 10YR3/2黒褐色粘質土

第49図 平断面図 (S=1/60)



# 東奈良遺跡 (HN11-1)

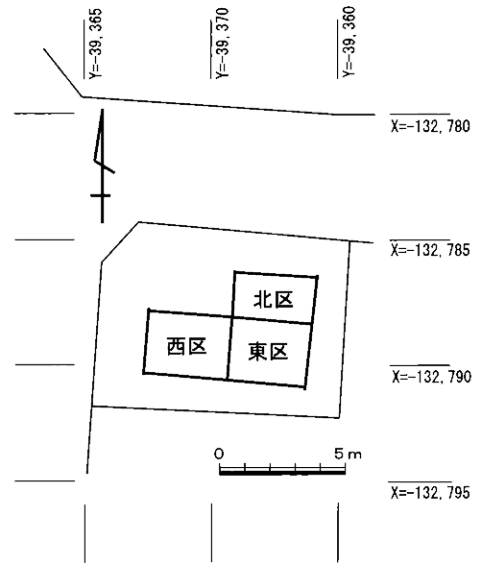
所在地 茨木市東奈良二丁目764-13  
 開発事業 個人住宅新築工事  
 調査期間 平成24年3月12日～平成24年3月14日  
 調査面積 約22㎡  
 調査担当 宮本 賢治  
 調査結果

**位置と環境** 東奈良遺跡は茨木市の南東部に位置し、東限は元茨木川、西限を大正川とする東西約1km、南北約1.2kmの複合遺跡である。

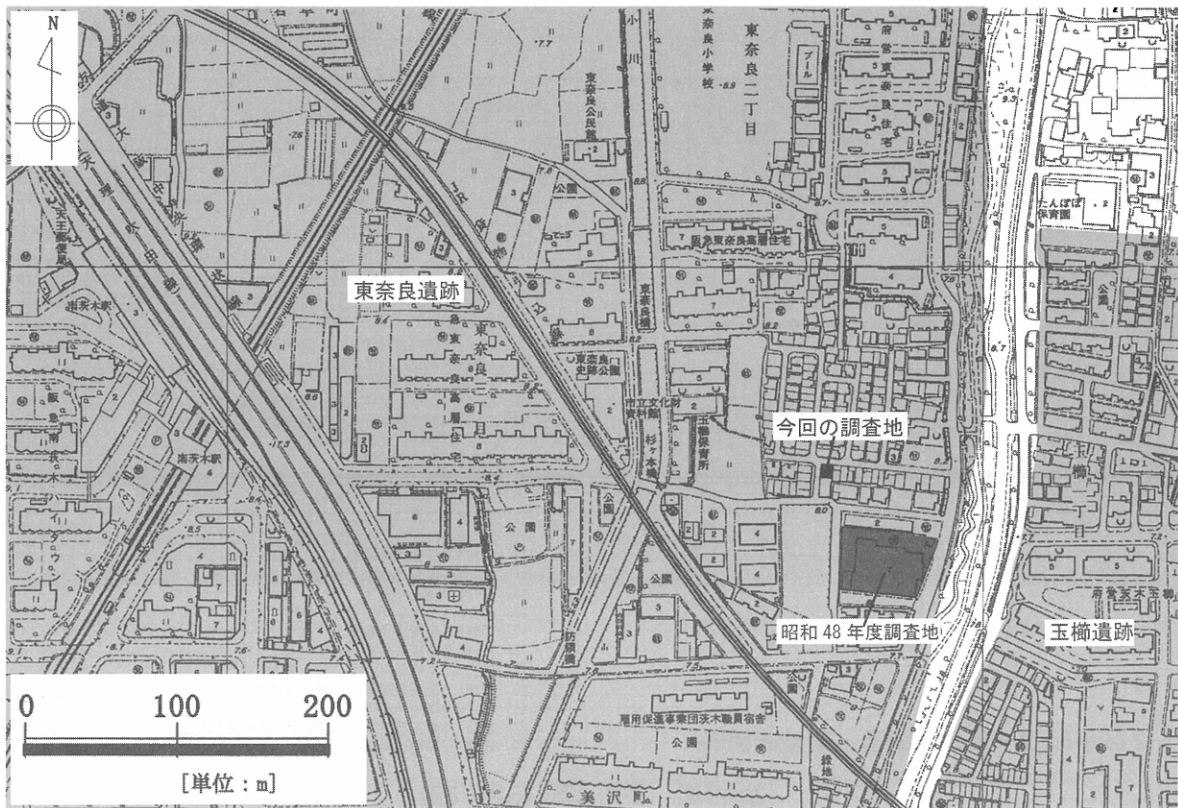
東奈良遺跡は弥生時代の大規模な集落であり、昭和48年の開発に伴う発掘調査において、重要文化財に指定されている銅鐸、銅矛や勾玉の鋳型が出土したことにより、世間の耳目を集め、全国にその名が広まった。このような遺物のほかにも、竪穴式住居や掘立柱建物、方形周溝墓をはじめとする弥生時代の多くの遺構が発掘調査で確認されている。

しかし、この広い弥生時代の遺跡の全容を把握するには至っておらず、今後とも地道な調査成果の蓄積が必要とされる。

今回の調査地は、東奈良遺跡の東部にあたり、銅鐸の鋳型などが出土した昭和48年の調査地の北西に位置している。



第50図 調査区位置図 (S=1/300)



第51図 調査地位置図 (S=1/5000)

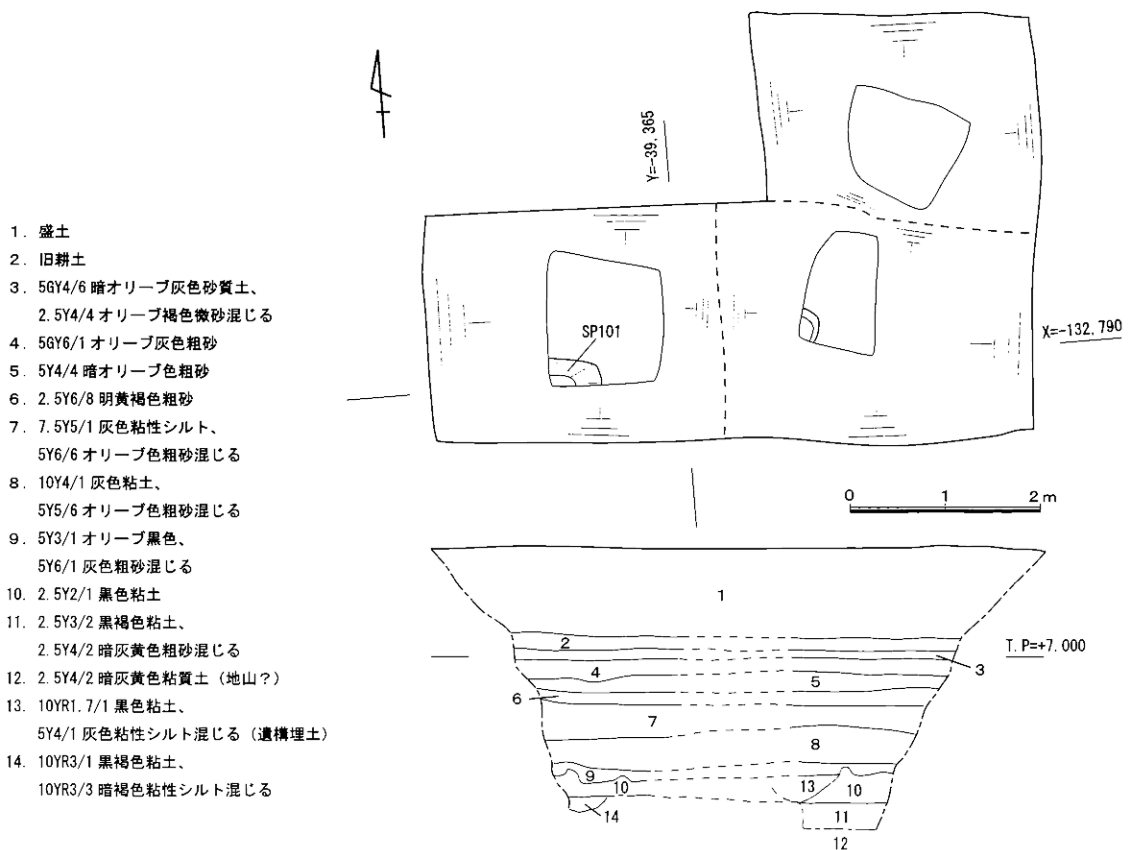
**基本層序** 今回の調査では、調査地の面積が狭小であり、廃土置き場の確保や安全面を考慮して、掘削から埋戻しまでを一日で行うこととした。そのため、調査地を3区にわけ、各区の調査を1日ごとに順次行った。

調査地の現地表面は、標高約8.2mをはかる。基本層序は上層から順に第1層現代盛土(層厚約0.9m)、第2層旧耕土(層厚約0.2m)、第3層5GY4/6暗オリーブ灰色砂質土、2.5Y4/4オリーブ褐色微砂混じる(層厚約0.1m)、第4層5GY6/1オリーブ灰色粗砂(層厚約0.2m)、第5層5Y4/4暗オリーブ色粗砂(層厚約0.2m)、第6層2.5Y6/8明黄褐色粗砂(層厚約0.2m)、第7層7.5Y5/1灰色粘性シルト、5Y6/6オリーブ色粗砂混じる(層厚約0.3m)、第8層10Y4/1灰色粘土、5Y6/6オリーブ色粗砂混じる(層厚約0.4m)、第9層5Y3/1オリーブ黒色粘土、5Y6/1灰色微砂混じる(層厚約0.1m)、第10層2.5Y2/1黒色粘土(層厚約0.2m)、第11層2.5Y3/2黒褐色粘土、2.5Y4/2暗灰黄色粗砂混じる(層厚約0.2m)、第12層2.5Y4/2暗灰黄色粘質土(地山)である。

**検出遺構** 今回の調査では、西区トレンチにおいて、第11層上面の南西隅において遺構を確認した。また、東区トレンチの第10層上面において遺構を確認した。西区トレンチで検出した遺構SP101からは、細片であり図化できないものの、外面にタタキを施す甕の体部片が出土している。今回の調査で検出した遺構の規模や性格は、調査地が狭小であるため、全容を把握するにはいたらなかった。

**出土遺物** 今回の調査においては、コンテナ箱にして約1箱分の土器片が出土している。その大半が弥生土器の細片であり、器壁の摩耗も著しく、図化できるものは少量であった。

以下、図化した遺物の詳細を述べる。



第52図 遺構平面・南壁土層断面図(S=1/80)

図70の1～7は、東区トレンチの第10層から出土したものである。1は、甕の口縁から頸部にかけての土器片である。2、4、5は、壺もしくは甕の底部であり、外面にタタキを施し、内面には板状工具の痕跡を観察することができる。3は、中空の高杯脚部である。6は壺の底部で、外面には板状工具によるヘラケズリが施されている。7は、壺の口縁である。口縁部には凹線文をめぐらし、円形浮文を施している。

8～16は、西区トレンチの第10層から出土した土器である。8、9は、壺の口縁である。口縁外端面に凹線文をめぐらせ、円形浮文を施す。9は、器壁の摩耗が著しく調整を確認できない。10～12はいずれも鉢・甕・壺の口縁部であるが、器壁の摩耗が著しく、破片も小さいため、口径を復元することはできなかった。13、14、16は、壺もしくは甕の底部で、15は、高杯の脚部である。

17～19は、西区トレンチの第1遺構面精査中に出土した遺物である。17は高杯の坏部であり、口径は、22.2cmをはかる。18は、外面にタタキを施した甕の底部であり、19は高杯の脚部である。

図71の20～23は、北区トレンチの第10層から出土したものである。いずれも甕や壺の口縁部から体部にかけての土器片である。

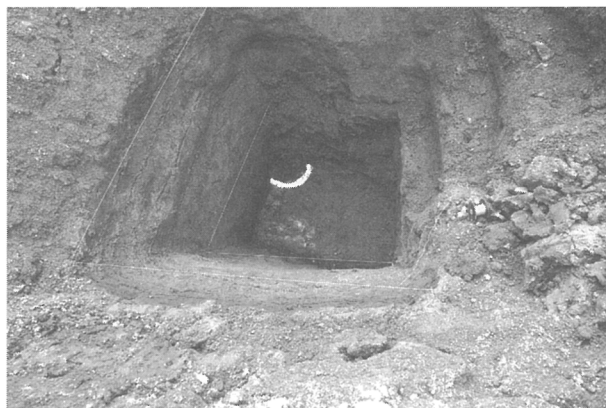
24～32は、北区トレンチの第11層から出土したものである。24は鉢の口縁から胴部にかけての破片である。25は、壺の口縁部である。口縁内面には列点文が、口縁外端面に波状文が施されている。27～29は、壺の底部片である。30～32は高杯の脚部や坏部である。

今回出土した遺物の多くは、おおむね弥生時代後期におさまるものと考えられる。

**まとめ** 今回の調査地は、東奈良遺跡を代表する遺物である石製銅鐸型出土地の近接地にあたり、狭い調査面積にも関わらず一定量の遺物が出土した。調査地は盛土などが非常に厚いため、調査面積が狭くなり、遺構の性格などを明らかにすることはできなかった。しかし、住宅開発が進んだ調査地付近においても、弥生時代の遺構や遺物が残存していることを確認できたため、今後も継続した調査が必要であろう。

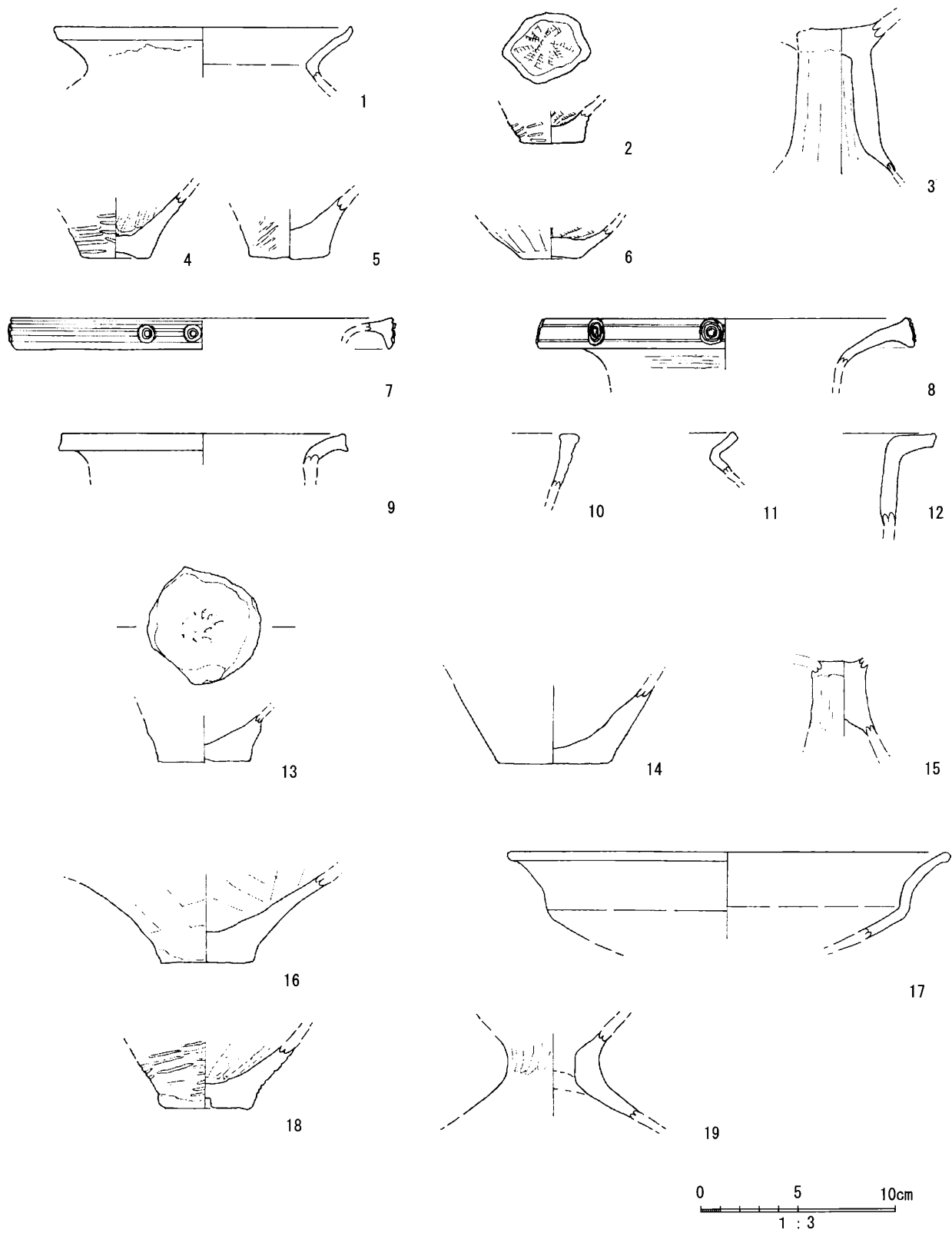


西側トレンチ土層断面

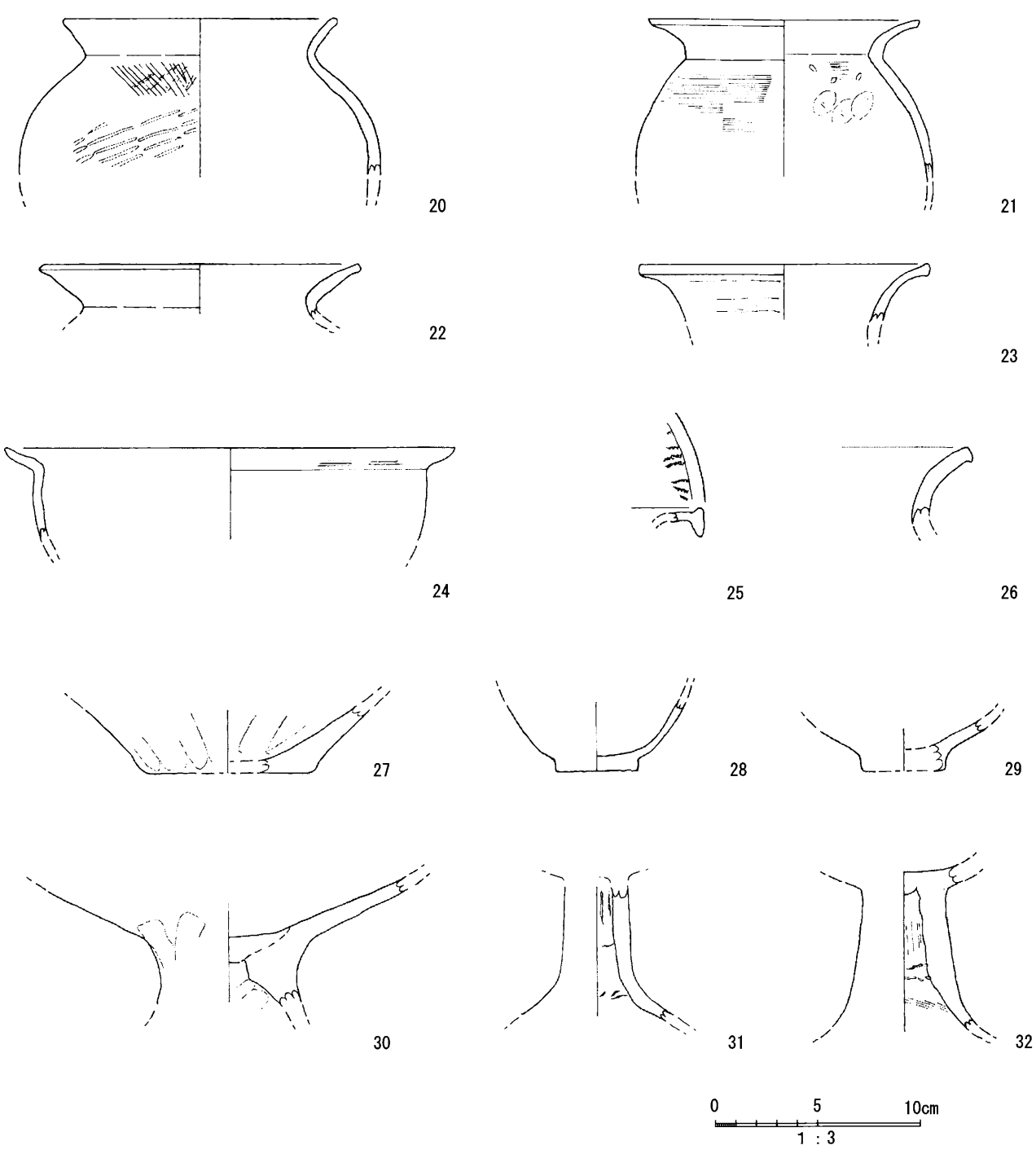


東側トレンチ遺構検出写真

第53図 発掘調査風景



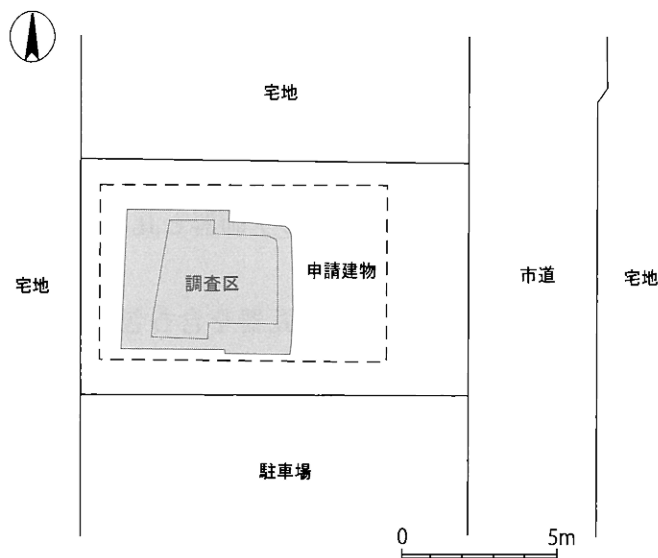
第54图 出土遺物実測図(1)



第55图 出土遺物実測図(2)

# 溝咋遺跡

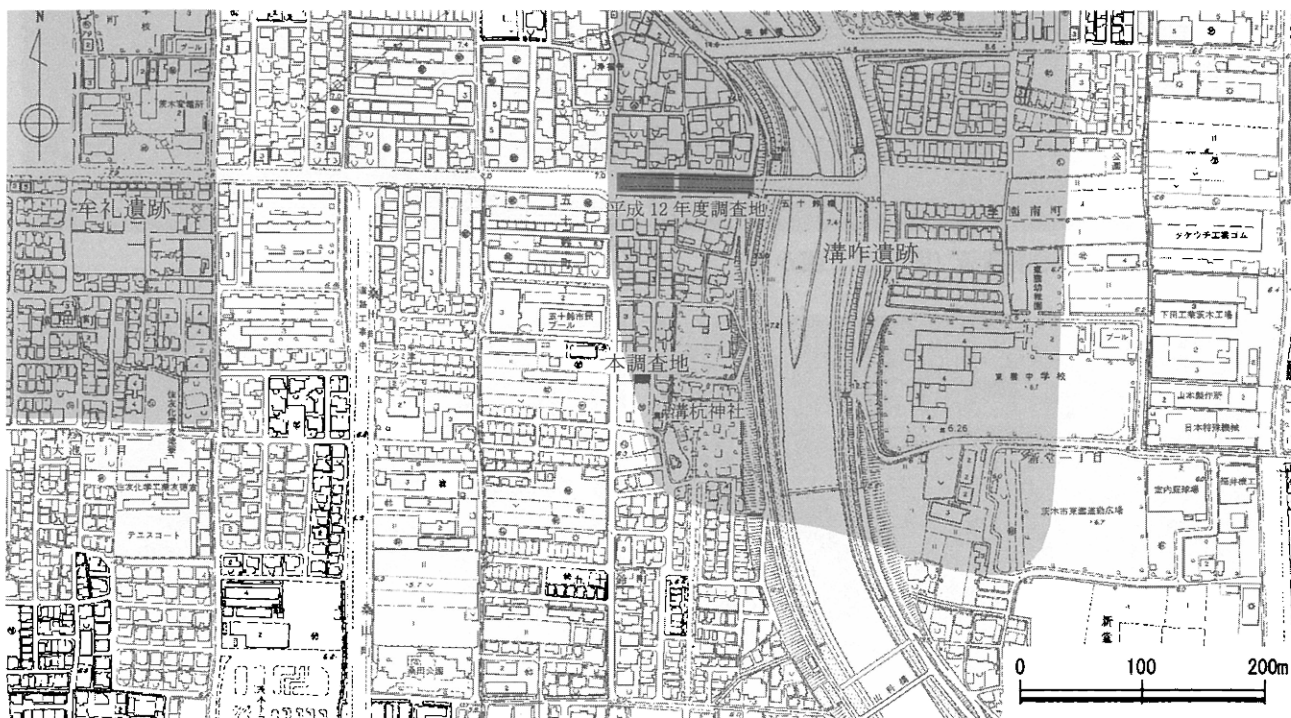
所在地 茨木市五十鈴町223-1の一部  
 開発事業 個人住宅新築工事  
 調査期間 平成24年1月5・6日  
 調査面積 約23㎡  
 調査担当 中東 正之  
 調査結果



第56図 調査区配置図

**経過** 溝咋遺跡は、昭和32年の安威川の改修工事を契機に発見され、溝杭（咋）庄とされる中世集落と考えられてきたが、平成7年から11年にかけての、安威川左岸の浪商学園跡地における大阪府文化財センターによる大規模な調査で、古墳時代の稲作集落を主体とする、弥生時代前期から中・近世までの遺構・遺物が検出されている。本調査地は、安威川右岸の自然堤防上に立地する溝咋神社本殿の北西約50mに位置する。平成12年度に、当地の北約150mの道路予定地で本市による調査が実施され、平安時代中期から中世の遺構面と安威川の旧河道、さらに現地表面下約3.5mの深所からは、弥生時代前期前半の遺物を伴う土坑が検出されている。本調査では、比較的浅い深度で検出可能と思われる平安時代中期から中世の遺構面に該当する層位の確認を目的に、調査を実施した。

**遺構と遺物** 現地表面は標高約6.3mを測る。現在も地下水位は高く、表層もグライ化して湿潤な層相である。層序は、上層より第1層 表土・盛土、第2層 オリーブ黒色腐植混じり砂質シ

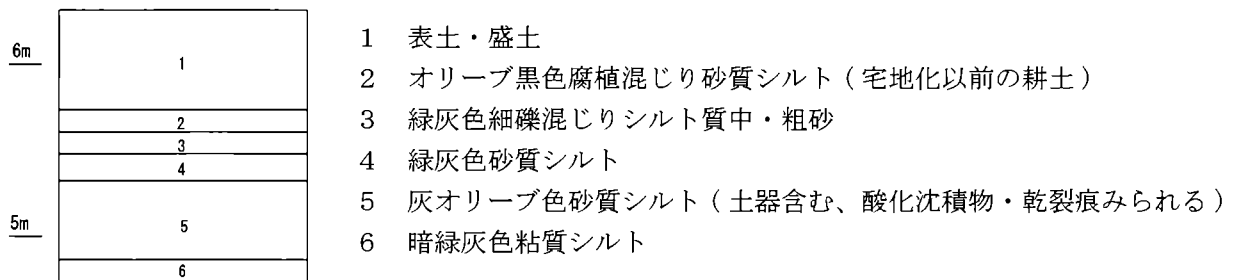


第57図 調査地位置図

ルト、第3層 緑灰色細礫混じりシルト質中・粗砂、第4層 緑灰色砂質シルト、第5層 灰オリーブ色砂質シルト、第6層 暗緑灰色粘質シルトとなる。第2～4層は淘汰悪く耕起が認められる耕作土層である。第5層は土師器や瓦器をわずかに含む包含層である。酸化鉄が集中し、植物の根の痕跡や乾裂痕がみられることから、稲作耕土のベース層であったと考えられる。土地改良のための客土である可能性もあるが、層相からは判断できなかった。第6層は暗色帯であるが有機物や遺物は認められなかった。結果的には、第5層上面などで変形を認めるものの遺構は検出されなかった。第5層の土師器と瓦器は、摩滅した細片のため詳細は不明であるが、古代末から中世と考えられる。

**小結** 当地では土師器や瓦器を含む包含層を検出したが、遺構は確認できなかった。より深い層位には、初期稲作の時代を含めた遺構・遺物が存在する可能性があるが、これを確認することはできなかった。今回の調査結果からは、自然堤防などの微高地上ではなく、おもに水田として土地利用がなされてきた後背地であった可能性が考えられる。

**参考文献** 茨木市教育委員会 2002年 『平成13年度発掘調査概報』



第58図 断面柱状図



トレンチ掘削状況（西半部・西から）



トレンチ南壁面



調査風景



調査地近景

第59図 発掘調査風景

# 耳原遺跡 (MH12-1)

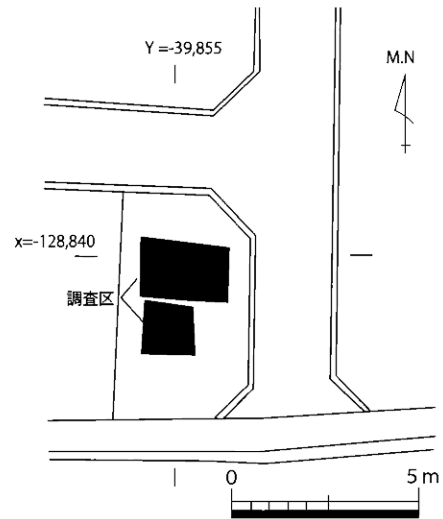
所在地 茨木市耳原一丁目237番5  
 開発事業 個人住宅建築  
 調査期間 平成24年4月12日～13日  
 調査面積 約21㎡  
 調査担当 宮本 賢治  
 調査結果

**基本層序** 現地表面は、標高約22mをはかる。基本層序は、第1層が現代盛土(層厚約1.1m)。第2層は旧耕土(層厚約0.2m)第3層床土及び整地土(層厚約0.1m)第4層整地土(層厚約0.18m)第5層包含層(層厚約0.1m)第6層包含層(層厚0.3m)であり、第6層直下が地山となる。遺構は、地山面で検出した。

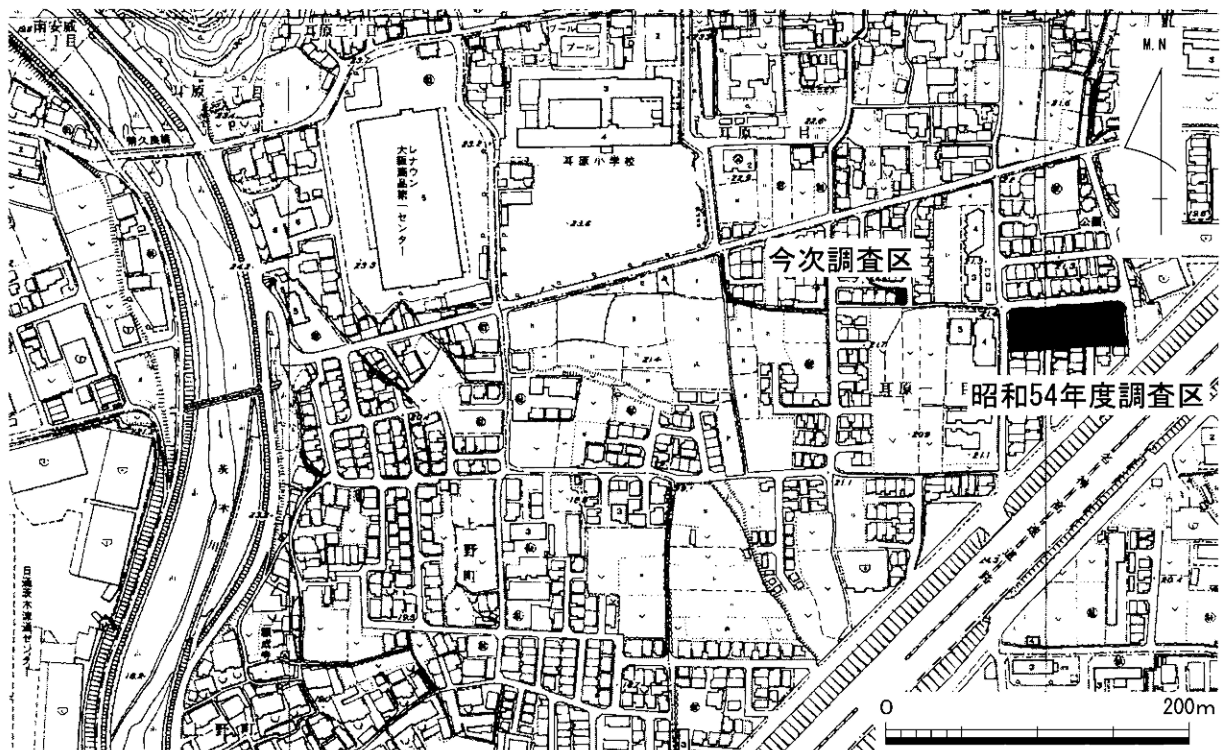
**検出遺構** 南側調査区の東壁際に溝状の落ち込みを検出したが、調査区外へと延びるため全容は不明である。埋土は、10YR4/2灰黄褐色粘土と10YR5/6黄褐色砂質土で構成される混合土であり、やや粒子の粗い細粒砂等も認められる。遺構の全容が不明であるため、推論の域はでないが、自然流路であった可能性もある。

**出土遺物** 出土した遺物は、いずれも包含層からの出土であり、碎片のため図化可能なものは1点のみであった。図化できたものは、弥生土器の甕で口縁部付近のものである。貼り付け突帯が1条巡り、上部に沈線が数条認められる。弥生時代前期中段階頃の所産と考えられる。

**まとめ** 当該地の地形は、巨視的にみれば、市域北側の北摂山地から派生する台地の南端とし



第60図 調査区配置図



第61図 調査地位置図

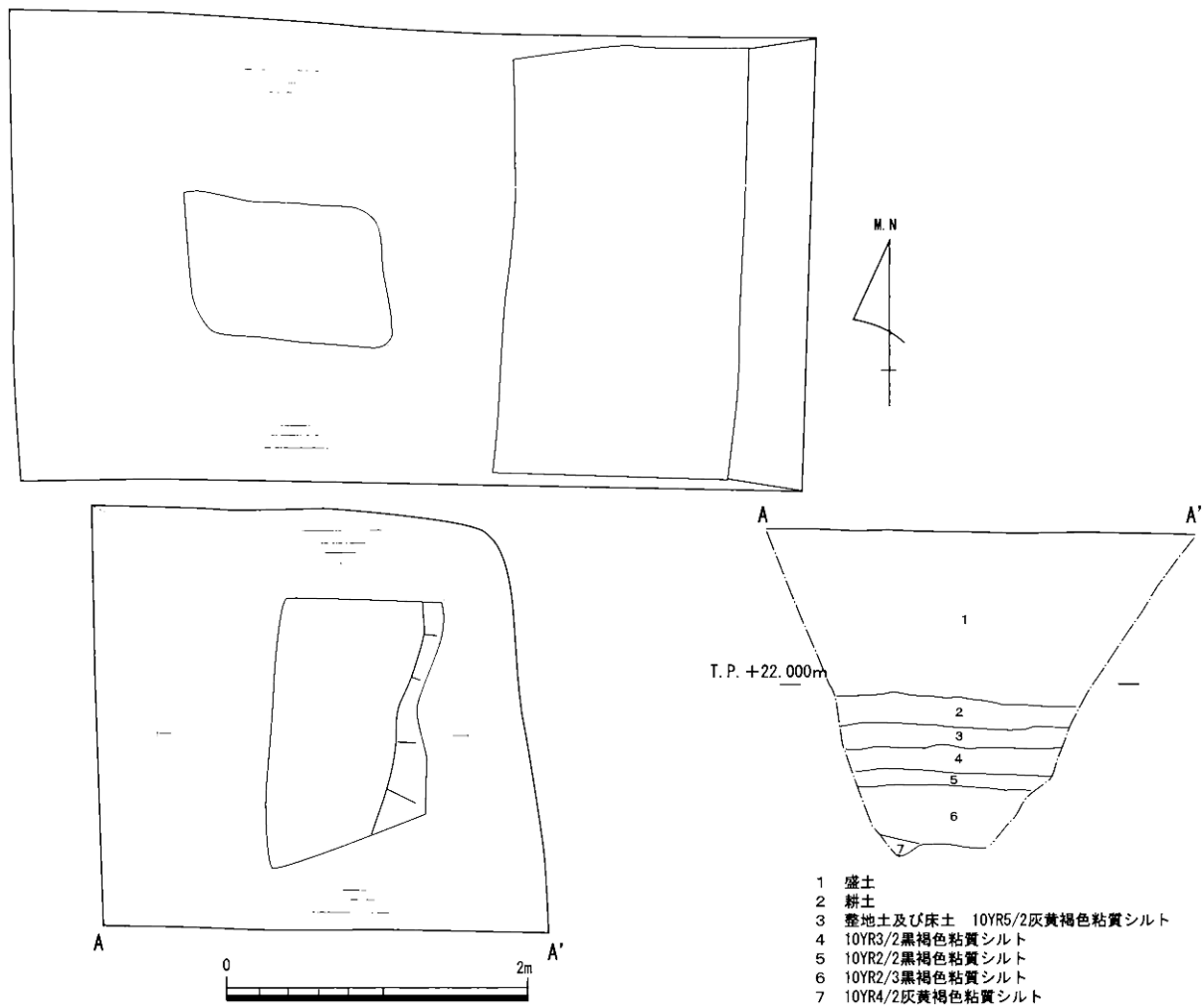


て位置付けることができるが、微視的にみれば、今次調査区のすぐ南側は、高低差約1mを計る段差が認められ、南側が一段低い状況となっている。

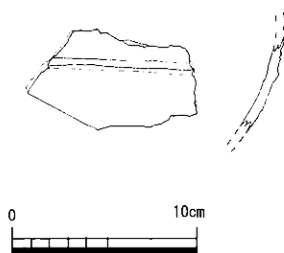
昭和54年度調査で縄文時代晩期の甕棺墓15基を検出したのは、当該地より約100m南東方向に位置しており、当該地より一段低い土地状況に立地している。

今次調査で出土した遺物を踏まえると、耳原遺跡における縄文時代晩期から弥生時代前期の痕跡は、微地形に左右されない広い範囲で展開していた可能性が高い。

耳原遺跡における近年の発掘調査は、個人住宅建設に伴う小規模な調査が多いが、詳細な時期の特定と集落域の分布、地形上の特徴を把握していく事で、今次調査で検出した溝状遺構のような遺構の性格判断も可能になるとと思われる。



第62図 遺構平面・断面図



第63図 出土遺物



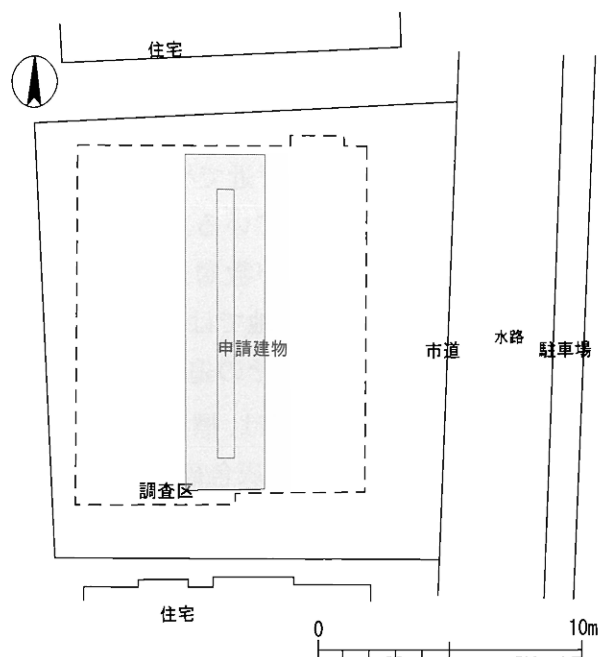
第64図 南側調査区全景(西から)

## 牟礼遺跡

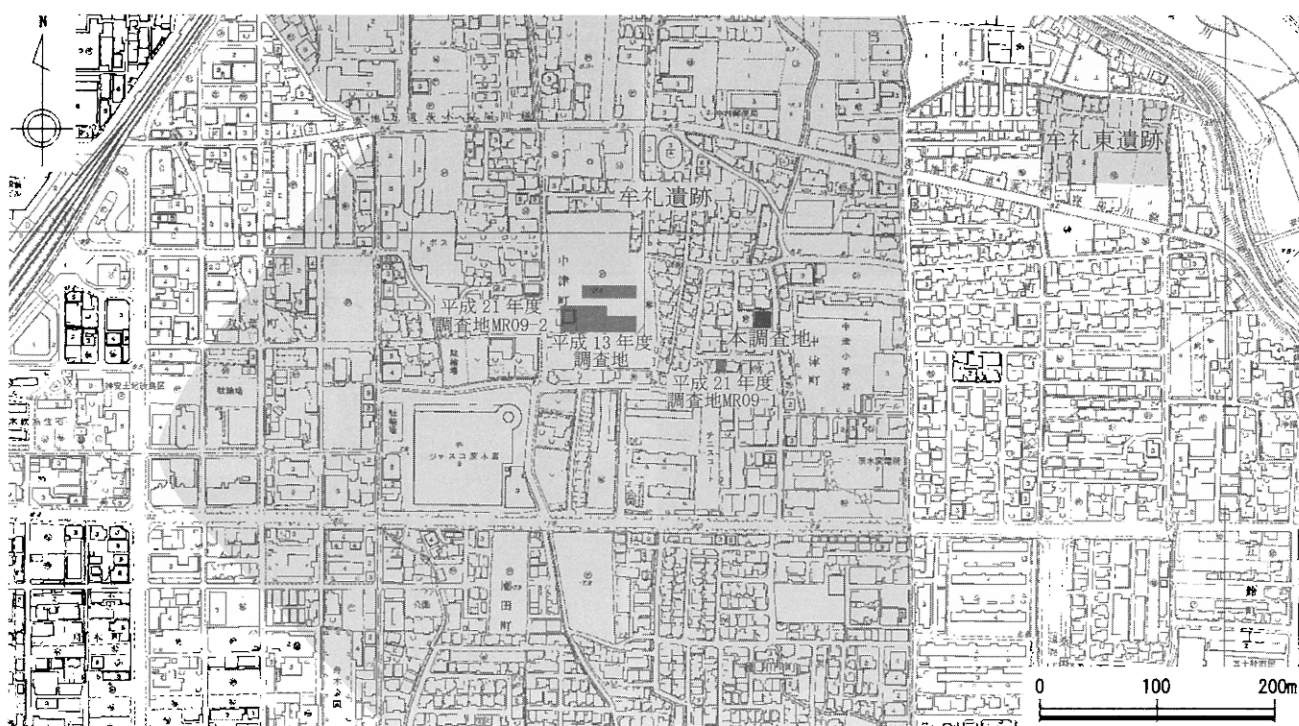
所在地 茨木市中津町858番12  
 開発事業 個人住宅新築工事  
 調査期間 平成24年6月12・13日  
 調査面積 約33㎡  
 調査担当 中東 正之  
 調査結果

経過 牟礼遺跡は、昭和60年に中津町のジャスコ新茨木店の調査で発見され、縄文時代晩期の突帯文土器を伴う井堰が穿たれた自然流路などを検出したところから、撰津地域における水田稲作文化の伝播を考えるうえで重要な遺跡である。その後の周辺の調査では、中世から近世の水田面をはじめ、弥生時代前期の流路や弥生時代前期の水田面と推定される包含層などを検出していたが、平成13年度

に相次いだ調査で、中津小学校北側の調査地では13世紀と11世紀前後の二面の水田面が確認され、東方の溝咋遺跡の集落との関係が指摘されるなど、中世集落の一端が示された。同じく遺跡発見地点の北東側の調査地では、弥生時代前期をはじめ古墳時代前期初頭および同後期の遺構や中・近世水田面などが検出され、遺跡発見以来となる縄文時代晩期の土器も弥生時代前期の遺物とともに落ち込みから出土している。また近年は個人住宅を中心に調査が実施されているが、遺跡発見地点の北東側の平成13年度調査地を例にとると、古墳時代の遺構面で現地表面下約

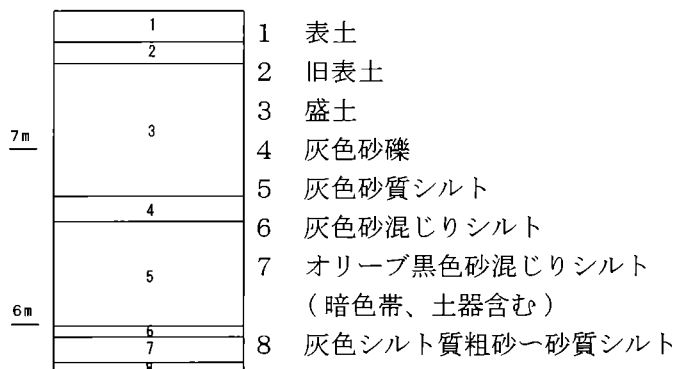


第65図 調査区配置図



第66図 調査地位置図

1.8m、弥生時代前期の遺構面はさらに0.5m下層で検出されるなど、深所の調査となるため、湿潤さも相まって小規模の調査は困難な状況である。当地に近い平成21年度の個人住宅の調査では、現地表面下約1.5mの標高6.3m付近で平安時代中期頃の包含層を検出している。包含層以下も細粒質の水平堆積が数層連続し、水田層の可能性もある。当地では、平成21年度調査の結果をうけて、その追認とあらたな知見を得るため断面観察による調査を実施した。



第67図 断面柱状図

**遺構と遺物** 現地表面は、標高約7.9mを測る。層序は、上層より第1層 現表土、第2層 旧表土、第3層 盛土、第4層 灰色砂礫（ラミナ・洪水層）、第5層 灰色腐植混じり砂質シルト（第6層の偽礫を多く含む整地土?）、第6層 灰色砂混じりシルト、第7層 オリーブ黒色砂混じりシルト（土壌化、土器含む）、第8層 灰色シルト質粗砂～砂質シルト（北側が粗砂で、南側へ向かって細粒化する）となる。畦や足跡等の荷重痕を含め遺構は検出されなかった。遺物は、第7層出土の土師質の土器一片のみである。摩滅した細片で時期は不明である。

**小結** 当地では標高5.9mの層位で遺物を含む暗色帯を検出した。これは平成21年度調査地の標高6.3mで検出された平安時代中期頃の包含層より深く、古墳時代や弥生時代に遡る水田層である可能性もあるが、確認には至らなかった。沖積地の深所に存在する水田等の遺構面に対しては、矢板等の安全対策と、有効な面積の調査が必要であろう。

**参考文献** 茨木市教育委員会 2002 『平成13年度発掘調査概報』



トレンチ状況 (北半部・南から)



トレンチ西壁面



作業状況



調査地近景

第68図 発掘調査風景

## 牟礼遺跡 (MR12-3)

所在地 茨木市園田町736番4

開発事業 個人住宅新築工事

調査期間 平成24年8月30日

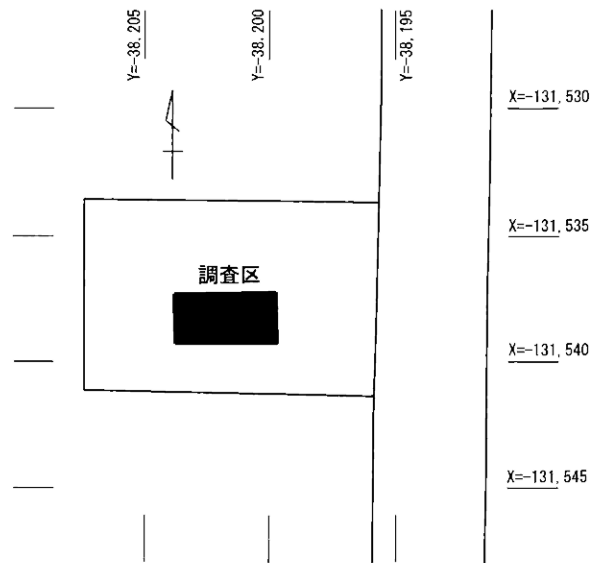
調査面積 約8㎡

調査担当 富田 卓見

### 調査結果

**位置と環境** 牟礼遺跡は、阪急茨木市駅東側で、茨木市東部を南北に流れる安威川右岸の沖積地に立地する縄文時代晩期から中世の複合遺跡である。遺跡包蔵範囲は、東西約600m・南北約800mに及び、今回の調査地は遺跡内の南端に位置している。当遺跡周辺には、南西側に平安時代後期頃の集落跡が確認された舟木遺跡、東側には溝作(杭)庄の推定地である溝杭遺跡などがある。

昭和60年度調査(第1次)において、縄文時代晩期の土器や井堰を伴う自然流路などを検出した。平成13年度調査では、古墳時代前期初頭(庄内併行期)の土器と平鋏・なすび形又鋤などの木製品を伴う流路、その下位層から縄文時代晩期と思われる土器群を検出した。平成22年度調査では、弥生時代後期のものと思われる土器片や、古代～中世の土器片を検出した。他にも周辺にて調査が行われているが、遺物包含層・遺構面が比較的深い層位に存在し、また地盤が弱く湧



第69図 調査区位置図 (S = 1/300)



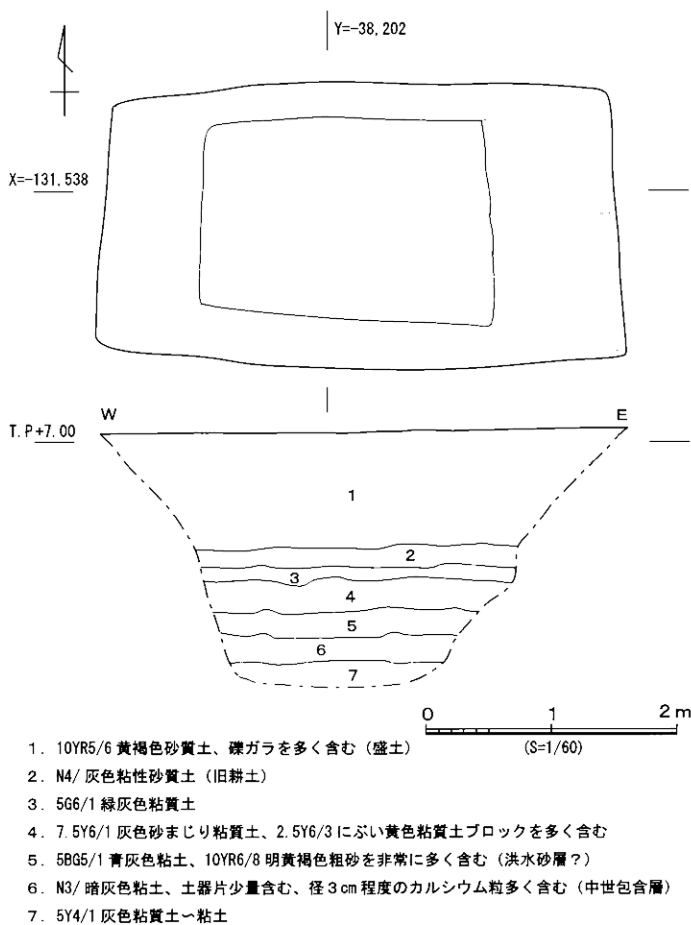
第70図 調査地位置図 (S = 1/5000)

水も頻繁に発生するため、小規模調査では十分な情報が得られないことが多い状況である。

**基本層序** 盛土(層厚約0.9 m)、旧耕土(層厚約0.15 m)、緑灰色粘質土(層厚約0.1 m)、灰色砂まじり粘質土(層厚約0.25 m)、青灰色粘土(層厚約0.2 m)、暗灰色粘土(層厚約0.2 m)、灰色粘質土～粘土(層厚約0.2 m)という堆積である。

**検出遺構・遺物** 灰色砂まじり粘質土層上面にて検出を行った。その結果、当面から遺構・遺物は確認されなかった。その後さらに南壁際の掘り下げを行い、GL-約1.5 mの暗灰色粘土層中より、土器片を検出した(第95図)。1は土師器皿で、「て」の字状口縁をもつものである。12世紀頃のものと思われる。2は黒色土器で、底部片を検出した。内外面だけではなく胎土も黒色を呈している。高台は粘土紐を貼付けたのち簡単なナデ調整を行っており、この時期に見られるしっかりした高台調整ではないことから、在地系土器の可能性が高い。時期は、1の土師器皿と同じ12世紀頃と思われる。

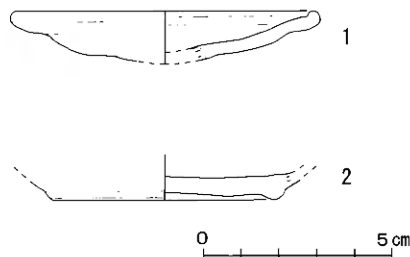
**まとめ** 今回の調査で、中世の遺物包含層の存在を確認した。さらに深い層については確認できなかったが、周辺の既往の調査にて縄文土器が検出されていることから、深い層において同時期のものが確認される可能性がある。また今回確認した中世遺物包含層は比較的安定した土層であることから、当地一帯に広がっていると思われる。今後の調査によって、当遺跡を含めた安威川右岸に広がっていたと推測される中世集落の様相が明らかになることを期待したい。



第71図 調査区平面・土層断面図 (S = 1/60)



第72図 南壁土層断面状況



第73図 出土遺物 (S=1/2)

報告書抄録

ふりがな	おおさかふいばらきしへいせいじゅうよねんどはつかつちょうさがいはう-こじんじゅうたくけんちくにともなうはつかつちょうさほうこくしょ-						
書名	大阪府茨木市平成24年度発掘調査概報-個人住宅建築に伴う発掘調査報告書-						
副書名	平成24年度(2012年度)						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ書							
編著者名	中東正之・関梓・富田卓見・藤田徹也・木村健明・須田佑子						
編集機関	茨木市教育委員会						
所在地	567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号						
発行年月日	西暦2013年3月31日						
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積
溝作遺跡	五十鈴町223-1	27211	51	34-81-32	135-58-81	20120105 ~ 20120106	23.00 m <sup>2</sup>
茨木遺跡	片桐町1496	27211	104	34-81-88	135-57-11	20120207 ~ 20120208	22.00 m <sup>2</sup>
東奈良遺跡	東奈良二丁目764-13	27211	55	34-80-22	135-56-97	20120312 ~ 20120313	22.00 m <sup>2</sup>
耳原遺跡	耳原一丁目237-5	27211	31	34-83-78	135-56-42	20120412 ~ 20120413	21.00 m <sup>2</sup>
茨木遺跡	大手町1593	27211	104	34-81-67	135-57-23	20120418 ~ 20120419	24.00 m <sup>2</sup>
太田茶臼山陪塚	高田町1-47	27211	26	34-84-57	135-58-01	20120522 ~ 20120523	30.00 m <sup>2</sup>
大田廃寺跡	東太田二丁目248-6	27211	27	34-84-15	135-58-00	20120523 ~ 20120524	9.00 m <sup>2</sup>
牟礼遺跡	中津町858-12	27211	82	34-81-64	135-58-29	20120612 ~ 20120613	33.00 m <sup>2</sup>
郡遺跡	上穂積四丁目758-4, 757-14	27211	35	34-82-84	135-56-08	20120719 ~ 20120720	14.00 m <sup>2</sup>
郡遺跡	上穂積四丁目750-17	27211	35	34-82-82	135-55-93	20120816	11.50 m <sup>2</sup>
総持寺遺跡	西河原二丁目48-1, 48-3-2	27211	32	34-83-30	135-57-66	20120823 ~ 20120824	22.50 m <sup>2</sup>
茨木遺跡	元町1524-2, 1524-4	27211	104	34-81-82	135-57-05	20120829 ~ 20120830	12.00 m <sup>2</sup>
牟礼遺跡	園田町736-4	27211	82	34-81-35	135-58-24	20120830	8.00 m <sup>2</sup>
中条小学校遺跡	下中条町45-2	27211	52	34-81-24	135-56-67	20120910 ~ 20120911	10.40 m <sup>2</sup>
茨木遺跡	元町1524-1	27211	104	34-81-82	135-57-07	20120925	3.75 m <sup>2</sup>
郡遺跡	上穂積四丁目2-15	27211	35	34-82-64	135-55-94	20121105	2.25 m <sup>2</sup>
宿久庄遺跡	宿久庄二丁目380-1	27211	59	34-83-94	135-53-86	20121130	2.00 m <sup>2</sup>
茨木遺跡	元町1524-3, 1524-5	27211	104	34-81-82	135-57-04	20121205	6.00 m <sup>2</sup>
大田茶臼山古墳陪塚	高田町1-101	27211	26	34-84-65	135-57-98	20121221	20.00 m <sup>2</sup>
所収遺跡名	種別	主時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
溝作遺跡	集落跡	弥生時代～平安時代			土師器片・瓦器片		
茨木遺跡	集落跡	古墳時代	ビット		弥生土器片・土師器片		
東奈良遺跡	集落跡	弥生時代～古墳時代	ビット・土坑		須恵器・陶磁器・瓦器・陶器・近世瓦		
耳原遺跡	集落跡	弥生時代	ビット・溝		弥生土器片・土師器片		
茨木遺跡	集落跡	古墳時代	竹管水道・井戸・ビット・土坑		土師器・陶磁器・瓦器・漆器・丸瓦・平瓦		
太田茶臼山古墳陪塚	古墳	古墳時代					
大田廃寺跡	社寺跡	奈良時代	ビット・溝・土坑		近世土器		
牟礼遺跡	集落跡	縄文時代			土師器片		
郡遺跡	集落跡	弥生時代～古墳時代	土坑		弥生土器・土師器・須恵器・丸瓦		
郡遺跡	集落跡	弥生時代～古墳時代			土師器片		
総持寺遺跡	集落跡	弥生時代～古墳時代	井戸・流路				
茨木遺跡	集落跡	古墳時代～近世	ビット・溝・土坑		土師器・陶磁器・瓦・鉄塊		
牟礼遺跡	集落跡	縄文時代			土師器・須恵器・黒色土器		
中条小学校遺跡	集落跡	弥生時代～古墳時代	ビット・溝・土坑		土師器・瓦		
茨木遺跡	集落跡	古墳時代	ビット・土坑		土師器・陶磁器・瓦・土師質土器		
郡遺跡	集落跡	弥生時代～古墳時代					
宿久庄遺跡	集落跡	弥生時代					土層確認のみ、遺構・遺物は確認されず。
茨木遺跡	集落跡	古墳時代	溝		陶磁器・播鉢		遺構内からの出土無し。
大田茶臼山古墳陪塚	古墳	古墳時代					



**平成24年度発掘調査概報**

**－ 個人住宅建築に伴う発掘調査報告 －**

発行日 平成25年3月31日

発行 茨木市教育委員会

印刷所 株式会社トゥユー